

2019 年度修士論文

中国の早期英語教育導入とその効果
—英語能力とスポーツへの影響—

The Effects of English Education from Lower and Middle Grades
of the Elementary School in China
-English Ability and Interests in Sports-

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
トップスポーツマネジメントコース

5019A306-0

鈴木 款

Makoto Suzuki

研究指導教員: 平田 竹男 教授

目次

第1章	はじめに	1
第1節	背景	1
第1項	中国の早期英語教育	1
第2項	研究動機	2
第2節	先行研究	2
第3節	研究の目的	3
第2章	方法	4
第1節	中国の早期英語教育導入の経緯を明らかにするための文献調査	4
第2節	アンケート調査	4
第1項	調査方法と内容	4
第2項	研究対象期間	4
第3項	分析方法	4
第4項	調査項目	5
第5項	倫理的配慮	5
第3節	現地ヒヤリング調査	5
第1項	調査方法と内容	5
第2項	研究対象期間	5
第3項	分析方法	5
第4項	調査項目	6
第5項	倫理的配慮	6
第3章	結果	7
第1節	中国の教育制度	7
第2節	中国の英語教育導入過程	8
第1項	準備期（文化大革命後～2000年）	8
第2項	実験的導入期（2001年～2004年）	11
第3項	本格的導入期（2005年～）	15
第3節	早稲田大学留学生と中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査結果	19
第1項	回収数と回答者の属性	19
第2項	回答者の家庭環境	21
第3項	全体集計	23
第4項	世代別集計	26
第4節	現地ヒヤリング調査	29
第1項	北京大学附属小学校英語主任	29
第2項	上海市内公立小学校元英語教員	32
第3項	北京市内体育センター・スポーツバー利用者	35

第4項	北京市内青少年サッカークラブ	38
第5項	北京市月壇中学生徒.....	41
第4章	考察	42
第1節	早期英語教育導入の課題と克服について	42
第1項	全国への導入について	42
第2項	教員不足について	43
第3項	英語能力について	44
第2節	アンケートからみるスポーツとの関連	45
第3節	今後の中国の早期英語教育について.....	46
第4節	研究の限界.....	47
第5章	結論	48
第6章	謝辞	49
第7章	引用文献.....	50
参考資料		52
資料1	早稲田大学留学生対象の「アンケート調査」原本	52
資料2	中国国内の中国人大学生・大学院生対象の「アンケート調査」原本	64
資料3	「小学校で英語教育を積極的に推進することに関する教育部の指導意見（原文）」	73
資料4	小学校1年生と2年生の教科書で使われている単語・慣用句.....	76
資料5	小学校3年生と4年生の教科書で使われている単語・慣用句.....	78
図1	TOEFL iBT の日中スコア推移.....	1
図2	中国の学校系統図（文部科学省作成資料より）	7
図3	1978年当時に実験を行った主な自治体.....	9
図4	「OLYMPIC ENGLISH 100」表紙	10
図5	教育実験・研究指導の流れ.....	13
図6	中国の小学校教員数と英語（外国語）教員数の推移.....	16
図7	英語教科書小学校1年上表紙.....	17
図8	英語教科書小学校4年生上.....	18
図9	英語学習開始年齢 [全体集計].....	23
図10	英語を初めて学んだ場所 [全体集計].....	23
図11	居住地と英語開始年齢 [クロス集計].....	24
図12	英語能力に関する自己評価 [全体集計]	24
図13	スポーツ情報収集に活用する言語[全体集計]	25
図14	スポーツ情報収集の言語と外国のスポーツへの好意性 [クロス集計].....	25
図15	英語開始年齢 [世代別集計]	27

図 16	英語能力の自己評価 [世代別集計]	27
図 17	スポーツの情報収集に活用する言語 [世代別集計]	28
図 18	北京大学附属小学校	29
図 19	顧東妮（ぐー・どんに）氏	32
図 20	北京東単体育中心	35
図 21	北京市内のスポーツバー「Paddy O'Shea's」	37
図 22	北京長白虎青少年サッカークラブ	38
図 23	教員の数と質の確保のための 4 つの対応策	43
図 24	TOEFL と IELTS の早稲田留学生の平均最高スコア推移	44
図 25	中国人留学生数の推移	46
表 1	中国の早期英語教育導入過程	8
表 2	PETS 受験者数（人）	11
表 3	「小学校英語教育基本要求」（訳）	13
表 4	早期英語教育導入時期	15
表 5	小学校の教育課程基準（2005 年当時）	16
表 6	早稲田大学留学生のアンケート調査の回答者属性（N=119）	19
表 7	中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査の回答者属性（N=451）	20
表 8	早稲田大学留学生のアンケート調査の回答者の家庭環境（N=119）	21
表 9	中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査の回答者の家庭環境（N=451）	22
表 10	英語検定試験の結果 [世代別集計]	26
表 11	張氏ヒヤリングまとめ	31
表 12	顧氏ヒヤリングまとめ	34
表 13	体育センター利用者ヒヤリングまとめ	37
表 14	青少年サッカークラブの保護者らのヒヤリングまとめ	40
表 15	青少年サッカークラブに通う子どもの意見まとめ	40
表 16	早期英語教育導入の PDCA サイクル	43

第1章 はじめに

第1節 背景

1985年3月に早稲田大学政治経済学部経済学科を卒業した筆者は、30余年ぶりに早稲田に再び通うことになった。キャンパスに向かうと、大隈重信公の銅像は当時のままだったが、全く違ったのが留学生、特に中国人留学生の多さだった。さらにスポーツ科学院に通う中国人留学生と話をしてみると、皆一様に流ちょうに日本語を話し、外国スポーツの知識が豊富であるのに驚いた。ある日本人学生は彼らを指して「中国からの留学生は日本人学生に比べて3倍の情報を使っている」と言った。その理由を聞くと「中国人留学生は中国語と日本語と英語で情報検索をするから」と答えた。

一体中国人留学生はどうやって情報収集を行っているのか、そもそもこれまでどんな教育を受けてきたのか興味を持った筆者は、中国の教育システムについて調査を始めた。そして中国では小学校から英語教育を行っていること、さらに小学校の英語教育が20年近く前から義務化されていることを知り驚いた。小学校の英語教育（以下「早期英語教育」）は、果たして中国人留学生の英語能力や情報収集能力にどのような影響を与えたのかという疑問がこの研究の出発点であった。

第1項 中国の早期英語教育

世界がグローバル化する中、国際公用語である英語の習得は益々重要となっている。中国は1978年から早期英語教育を北京市や上海市など一部の地域で実験的に開始した。その後2001年から国として導入を始め、2005年にはほぼ全国で早期英語教育を実施した。現在、中国の都市部では小学校1年生から、他の地域では小学校3年生から英語が必修教科となっている。

TOEFLがiBTとなった2006年以降の国別スコアによると、中国は日本を毎年7～13ポイントリードしている。TOEFLのスコアを見る限り、中国人の英語能力は日本人より秀でている可能性が示唆された。

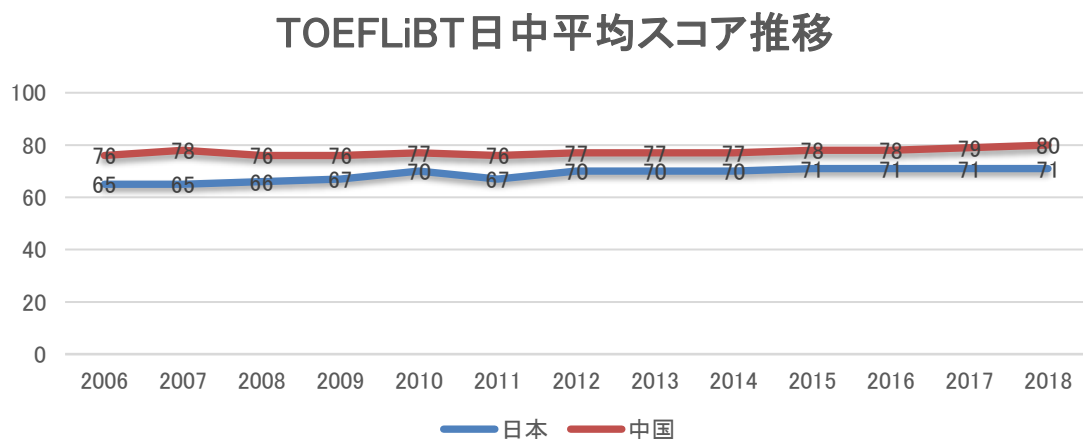


図1 TOEFL iBT の日中スコア推移

第2項 研究動機

日本は2020年度を教育改革の年と位置づけている。改革の一つの柱が小学校の英語教育である。公立の小学校ではこれまで5年生から外国語活動を行っていたが、3年生からに前倒し、5年生から必修教科として英語教育を開始する。これまで「英語特区」などの自治体で行われてきた英語教育が全国で行われるのだ。

筆者はこの数年間、こうした自治体の小学校を訪ね早期英語教育による子どもの英語能力への影響と効果を聞いてきた。一方で早期英語教育がまだ行われていない学校の関係者からは、2020年度の早期英語教育導入が本当にうまくいくのかといった不安や懸念の声も聞いた。

2020年度に行われる大学入学共通テストでは、英語4技能（読む・聞く・話す・書く）の達成状況を調べるため、英語民間試験を導入する予定であった。しかし「地域格差や経済格差を助長する」といった批判を受けて、文部科学省は2025年度まで延期することを決めた。

こうした教育現場の混乱を見るにつけ、日本で英語教育のありかたを議論するには、根拠となる先行事例やデータが不足していることを痛感した。教育の制度設計が定まらず、結果として教育現場に混乱や不安が起こるのは、先行事例の研究や客観的なデータが少なく、自身の経験や主観をもとにした議論が延々と行われてきたからではないか。

そこで、約20年前から早期英語教育を導入した中国は、日本にとって先行事例となり得、中国の早期英語教育導入時の実態を知ることは、2020年度に早期英語教育を開始する日本にとって意義があると考えた。

早稲田大学・大学院には2019年5月1日現在で3,419名の中国人留学生がおり、彼らは早期英語教育導入前後に義務教育を開始した世代であった。彼らを対象に調査を行うことは、中国の早期英語教育導入時の研究に資すると考えた。さらに中国国内の中国人大学生・大学院生を対象に同様の調査を行うことも研究に資するはずである。

また、早稲田大学・大学院の中国人留学生は、外国のスポーツについて知識が豊富な学生が多い。彼らがどうやって情報収集を行い、それが小学校から英語教育を受けたことによる影響なのか明らかにし、中国国内のスポーツ関係者に英語とスポーツに関わる意識調査を行うことは、早期英語教育がスポーツ普及の一助となるのかヒントになり得るのではないかと考えた。

第2節 先行研究

中国の早期英語教育に関する研究はいくつかある。松宮（2014）は、日中韓の小学校の英語学習の実施状況を調査し、中国で英語運用能力の向上が明らかになったとして、日本においても外国語活動の教科化と早期化を入れた英語教育の創設を提言した。

一方早期英語教育のマイナス面として、中国の教育の地域格差について新保（2011）は、中国は地域条件が著しく異なるため、都市部と比べると農村部及び少数民族地域は大きな差があると述べている。

また、中国の教育制度について文部科学省は、「諸外国の教育動向」や「諸外国の初等中等教育」などで教育制度の変化をウォッチしているほか、王（2015）は中国には生徒の能力や個性に応じ適切な方法を選ぶ「教無定法」という教育原則があると述べ、大田（2013）は中

国が PDCA サイクルを繰り返し、試行・改善を加えながら教育改革を進めていると述べている。

日本の英語教育との比較について陸ら（2014）は、中国の小学校の視察などを通じて得た知見から、日本の小学校の英語教育の問題点は指導員の力不足であると述べている。

中国の早期英語教育についての論文や書籍は存在するものの、早期英語教育導入の経緯を現地調査し、体系的に整理したものや、中国人を対象に早期英語教育が英語能力やスポーツの情報収集活動に与えた影響を調査・分析した研究はほとんど見当たらない。

第3節 研究の目的

本研究は中国が早期英語教育をどのように導入し、その授業を受けた児童が 18 歳を超えたときにどの程度の英語能力があり、スポーツ情報収集活動にどのような影響があるのか明らかにすることを目的とする。

第2章 方法

本研究では、中国の早期英語教育導入の経緯を明らかにするため文献調査を行った。また、早期英語教育による児童の英語能力とスポーツの情報収集活動への影響を調査するため、次の方法でアンケート調査を行った。さらに文献・アンケート調査を裏付けるため、現地（中国・北京と都内）にてヒヤリング調査を実施し実態把握を行った。

第1節 中国の早期英語教育導入の経緯を明らかにするための文献調査

「中国教育統計年鑑」各年版、「中国統計年鑑」各年版、中国教育部のウェブサイト、文部科学省のウェブサイト、「諸外国の初等中等教育」2002年度版などより、中国政府の早期英語教育の基本方針や教育現場への指導要領、学校教育の事例を調査し分析した。

第2節 アンケート調査

早稲田大学・大学院に在籍する中国人留学生、および中国国内の大学生・大学院生を対象に現在の英語力、これまでの学習歴、スポーツへの関心などをウェブ調査した。分析は学んだ時期による比較を行った。

第1項 調査方法と内容

アンケートはグーグル・フォームで SNS（「WeChat」など）または個別に依頼するなどして、早稲田大学・大学院に在学する 600 名の中国人留学生に調査を配布した（回収率 19.8%）。

また中国国内の中国人大学生・大学院生を対象に、SNS（「WeChat」のモーメンツ）で同様のアンケートを行った。調査はフォームに記入してもらい、記入後送信してもらう方法でデータを取得した。

早稲田大学留学生対象のアンケート調査では、項目は属性のほか、1) 中国での英語学習環境について（全 18 問）、2) 英語学習に対する意識について（全 5 問）、3) 英語学習とスポーツについて（全 9 問）とした。中国国内の大学生・大学院生を対象にしたアンケート調査では、項目は属性、1) 英語学習環境について（全 11 問）、2) 英語学習に対する意識について（全 3 問）、3) 英語学習とスポーツについて（全 6 問）とした。

第2項 研究対象期間

早稲田大学留学生のアンケート期間は、2019 年 11 月 11 日から 12 月 6 日まで行った。中国国内の大学生・大学院生のアンケート期間は、2020 年 1 月 17 日から 1 月 22 日まで行った。

第3項 分析方法

調査項目それぞれの単純集計およびクロス集計、学んだ時期による比較を実施した。

第4項 調査項目

早稲田大学留学生対象のアンケート調査の原本は別添資料1、中国国内の大学生・大学院生対象のアンケート調査の原本は別添資料2である。

第5項 倫理的配慮

調査実施の上での倫理的な配慮として、アンケート調査の冒頭に「百忙之中抽出宝贵时间回答问卷，我们不胜感激。アンケートの回答は統計的に処理されますので、特定の個人を識別できる情報として公表されることは一切ございません」との記載を行い、同意の上で調査への協力を依頼した。

第3節 現地ヒヤリング調査

第1項 調査方法と内容

中国・北京市、都内において以下を対象にヒヤリング調査を行った。所要時間は1人当たり5分から2時間程度。体育センターと青少年サッカークラブは屋外で複数者を対象にしたため、他の回答者に影響することが無いようヒヤリングは1人ずつ実施した。

北京市内

- 1 北京大学附属小学校学長補佐兼英語主任
- 2 体育センター利用者
- 3 スポーツバー利用者
- 4 青少年サッカークラブの児童、親、コーチ

都内

- 1 上海の公立小学校の元英語教員
- 2 北京市立月壇中学校の生徒

第2項 研究対象期間

北京市内 2020年1月12日～15日

都内 上海の公立小学校の元英語教員 2020年1月19日

都内 北京市立月壇中学校の生徒 2020年1月20日

第3項 分析方法

ヒヤリング内容は回答者の了解を得て録音し、調査終了後録音された音声をすべて文書化した。中国人対象のヒヤリングについては、日本語・中国語の通訳者を介して行い、文書は音声を通訳者が日本語に翻訳して作成した。文章中のキーワードを抜き出すことで、実態の把握を行った。

第4項 調査項目

1 英語教員

経歴、勤務校の規模、英語教員数、英語開始学年、教員採用・待遇・育成、教科書、視聴覚教材、英語教育を取り巻く社会環境など

2 体育センター・スポーツバー利用者

属性、好きなスポーツ・選手、情報収集言語、スポーツと英語との関連性など

3 青少年サッカークラブの児童の親・コーチ

年齢、子どもの英語開始年齢、子どものサッカーの情報収集言語、子どもへの英語に関する指導方法、英語への意識など

4 青少年サッカークラブの児童

年齢、英語開始年齢、サッカー開始年齢、サッカーの情報収集言語、サッカーと英語学習の動機など

第5項 倫理的配慮

調査実施の上での倫理的な配慮として、英語教員の場合は個人名・画像を公表することについて承諾を得た上でヒヤリングと画像撮影を行い、英語教員以外の調査対象者に対しては、ヒヤリングの冒頭に「個人を特定できる情報として公表することは一切ありません」と伝え、同意の上で調査への協力を依頼した。青少年サッカークラブの児童の画像撮影と公開については保護者から承諾を得た。

第3章 結果

第1節 中国の教育制度

中国の学校制度は下図のとおりである。学期は2学期制がとられており、1学期は9月1日から1月の中旬まで、2学期は2月中旬から7月中旬までである。

1) 就学前教育

幼稚園で通常 3～5 歳の幼児を対象として行われる。就学前教育は義務では無いが、総入園率は 75%程度である。

2) 義務教育

中国では 1986 年に義務教育法が施行され、9 年制の義務教育が行われている。初等教育は小学校が 6 年制で入学年齢は 6 歳である。中等教育では初級中学（日本の中学校にあたる）が 3 年制である。1995 年以降は週 5 日制で土日は休日だが、特に都市部では宿題や補習が多い。

3) 高等教育

初級中学卒業後は、普通教育を行う高級中学（日本の高等学校にあたる・3 年制）と職業教育を行う中等専門学校（4 年制）、技術労働者学校（3 年制）、職業中学（2～3 年制）などがある。大学には、学部レベル（4～5 年）と短期の専科（2～3 年）があり、専科のみの学校は専科学校と呼ばれている。

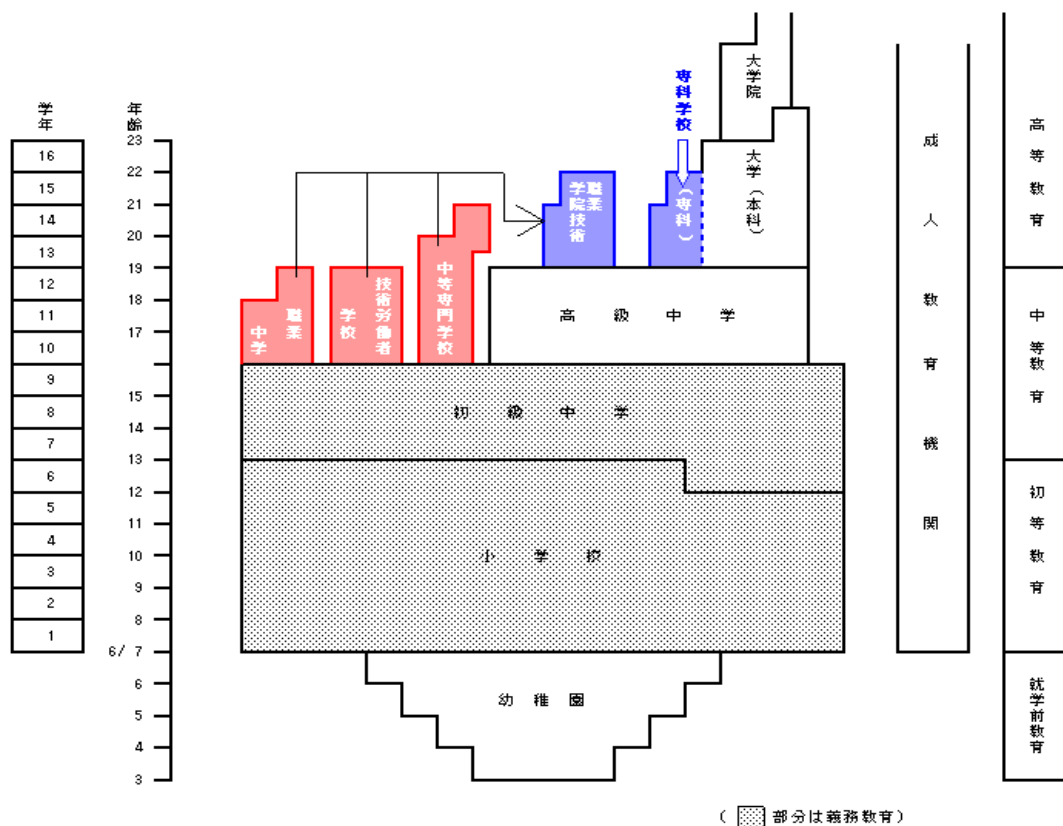


図2 中国の学校系統図（文部科学省作成資料より）

第2節 中国の英語教育導入過程

本研究では、中国の早期英語教育の導入過程を次の3つの時期に分けることとする。

- ① 2000年以前の「準備期」
- ② 2001年から2004年の「実験的導入期」
- ③ 2005年以降の「本格的導入期」

中国はこの3段階で早期英語教育を発展させていった。

表1 中国の早期英語教育導入過程

	準備期 1978～2000年	実験的導入期 2001～2004年	本格的導入期 2005年以降
時代背景	改革開放路線 北京五輪招致活動	北京五輪開催決定 WTO加盟決定	北京五輪開催
政府の動き	1978 導入開始 1999 PETS創設	2001 義務化決定	
開始学年	上海・北京など 小3 他地域 中1	上海・北京など 小1 他地域 小3	
導入地域	上海・北京など一部	全国38市・県	ほぼ全国へ拡大
教員採用・育成	師範学校・大卒の 新卒採用	他教科教員を異動 他学校との兼任 英国研修	

第1項 準備期（文化大革命後～2000年）

1) 時代背景と政府の動き

中国では1978年、文化大革命後の改革開放路線の中、「10年間の人材育成の空白を取り戻す」として、都市部を中心に「重点学校制度」を施行し、高等教育に進む人材を確保する教育政策が始まった。重点学校は公立学校の中で、優秀な人材の集中的な早期育成と教育の研究開発を目的として指定され、経費、施設設備や教員配置などの面で優遇された。

80年代前後の中国は、文化大革命による混乱で教育の普及の遅れや質の低下が指摘されていた。当時小学校教育は全国に普及しておらず、9割の子どもが入学しても、そのうち6割しか卒業できないと言われる状況であった。また小学校の教員は約半数が無資格であった。1978年頃は、地域により学制が5年制と6年制が併存していた。全国的な義務教育が実施され、義務教育は6歳から9年間と定められたのは1986年であった。

農村部では都市部に比較して9年制の義務教育の普及が遅れ、中国全体でみると1999年の段階で、9年制は6割程度であった。また、ほとんどの児童が入学したが、経済的な理由などにより途中で学校に来なくなる児童がいたため、卒業者は約9割であった。

小学校の教育課程に外国語教育の一環として英語教育が入ったのは1978年であった。条件の整っている重点学校では小学校3年生から英語教育を開始し、そうでない場合には初級中学から英語教育を開始した。英語教育の指導目標は次のとおりであった。

- ① 基本的な発音と文法を習得する
- ② 2,800（小学校から）または2,200（中学校から）の単語と慣用句を習得する
- ③ 辞書を使って中難度の文章を読解できる
- ④ 一定程度の「聞く・話す・書く・翻訳する」能力を備える

2) 開始学年と導入地域

しかし当時は、「母国語の習得を妨げる」などの批判や反発があり、小学校の英語教育は全国のほとんどの地域で実施には至らなかった。早期英語教育に対する主な批判は以下の3つであった。

- ① 母国語の習得の妨げになる
- ② 教員の人材不足で、授業を行うのは無理
- ③ 一生英語を使わない国民がいて、資源の浪費



図3 1978年当時に実験を行った主な自治体

一方、改革開放の機運の中で早期英語教育への社会的なニーズが強かった上海市、北京市、天津市、広東省、青島市、無錫（むしゃく）市、安徽（あんき）省などでは、実験的に小3から導入することになった。

3) 教員の採用と育成

1980年代まで教員は明確な資格が無く、師範学校・大学の卒業者を採用していた。しかし、1990年頃から師範学校・大学卒業者を教員の有資格者とした。教員になる要件は、①学歴、②標準中国語能力、③身体検査、④人物評価であった。

4) 北京オリンピック招致活動

1990年代になると、北京オリンピックの招致活動が本格化した。1989年に天安門事件があり、国際社会には北京オリンピック開催を問題視する声があった。しかし1999年に北京市とオリンピック招致委員会がタイアップして「北京市民が英語を話す」委員会が設立され、下図のような教材「Olympic English 100」が作成された。教材の内容は、日常的な英語の基本表現として挨拶や「ありがとう」「すみません」といった簡単な会話、時刻や天気、北京を訪れた外国人の道案内や買い物を手伝う際に使う会話などが紹介された。タクシーの運転手には、最低限の英会話取得が義務づけられた。

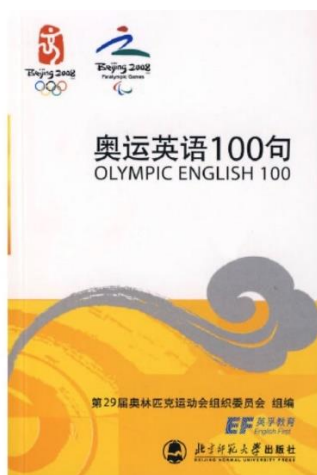


図4 「OLYMPIC ENGLISH 100」表紙

5) 英国と英語検定試験の創設

日本の文部科学省にあたる「教育部」は、英国の国際開発省(DFID:Department For International Development)との国際協力事業として、英語検定試験(Public English Test System、以下 PETS)を創設し 1999 年に一部都市で開始、2000 年より全国で実施した。この試験は教育部の下部組織である試験センターとケンブリッジ大学が共同で研究開発を行った。PETS は 5 つのレベルに分けられ、初級は初級中学卒業以上の英語水準、最上級は大学の英語専攻 2 年修了時の英語水準とされた。次表のように 1999 年以降 5 年間で、受験者数は 20 倍以上となった。

表 2 PETS 受験者数(人)

1999 年	28,577
2000 年	99,095
2001 年	182,189
2002 年	320,000
2003 年	NA
2004 年	697,000

第 2 項 実験的導入期(2001 年～2004 年)

1) 時代背景と政府の動き

2001 年に 2008 年北京オリンピック開催が決定し、WTO 加盟が決まった。これを受け中国政府は英語教育早期化に大きく舵を切った。当時教育部を司る国務院総理(首相に相当)は朱鎔基であった(2003 年まで国務院総理)。外務省によると、朱は英語に堪能で外国での講演や記者会見などは自ら英語でこなした。教育部は「英語は単なるコミュニケーション手段ではなく、これからの国民的資質として必要」だとして、早期英語教育の義務化を決定した。さらに、英語を学ぶことは国民に対する「基本要求」であるとした。国内にあった「英語は母国語の習得を阻害するもの」との批判に対して、教育部はそれまで行われてきた実験結果をもとに反証し、英語を公用語としている非英語圏と EU の英語教育導入状況を調査した結果、就学前の教育段階で標準中国語の基礎固めを行えば導入可能だと判断した。

2) 開始学年と導入地域

全国 38 の県・市で早期英語教育が義務化された。北京や上海などの大都市では小 1 から、他の地域では小 3 から英語教育を開始した。

3) 教員の採用と育成

小学校の英語教員には、教員養成機関である師範学校か一般の大学の教育学部で英語教員になるための科目を履修した学生を採用するのだが、2001 年の導入当初は英語教員が足りず、他教科の担当教員の兼任や他校との提携で不足分を補っていた。

英語教員の育成には、全教員を対象にした研修のほか、地域ごとに独自の研修が行われた。

英語教育の進んでいる北京市の一部地域では、研修の中にブリティッシュ・カウンセル承認の英語等級試験が組み込まれ、等級の取得目標が設定された。教員には「ロンドン三一学院（トリニティカレッジロンドン）」が定めた国際口語英語等級試験「Teachers of English to Speakers of Other Language」の受験を定めた。ロンドン三一学院は舞台芸術や英語の試験機関で 1938 年から英語試験を行っており、英語を母国語としない学生や教員向けに英語試験の証明書を発行した。

2001 年に国として初めて海外研修プログラムを実施し、各省から教員を選抜して、米国や英国、豪州、ニュージーランドに約 100 名を 6 ヶ月派遣した。

4) 教育部の「指導意見」

2001 年に教育部は「小学校で英語教育を積極的に推進することに関する教育部の指導意見（以下指導意見）」として、以下のような早期英語教育導入の骨子を明らかにした。

1 英語教育の導入について

- ・都市と県政府所在地の小学校では 2001 年の新学期から徐々に英語を開始し、農村部の小学校では 2002 年の新学期から徐々に英語を始める。
- ・各省、自治区、直轄市の教育行政機関は実情に合わせて、その地域の小学校における英語カリキュラムを設定してもよい。

2 英語教育カリキュラムについて

- ・児童の評価は日常の授業での興味・関心やコミュニケーション能力で行う。児童を試験の成績で順位付けしてはならない。
- ・授業時間は 1 回の時間を短くして頻度を高めること（毎週少なくとも 4 回）。課外時間と組み合わせるなど多様な展開をしてよい。
- ・伝統的な授業方法をあらため、音声・映像教材（DVD など）を十分に利用すること。特に英語教員が整っていない地域は、英語のテレビ番組・DVD・ビデオ・CD・テープなどの教材を積極的に利用すること。
- ・中国教育テレビ（CETV）は 2001 年上半期から英語教員の研修用番組を放送し、新学期からは授業用の英語テレビ教育番組を放送する。

3 教科書の管理強化

- ・国内には既に相当数の小学校英語教科書が存在しているため、政府が「基本要求」を参照に審査（検定）をする。審査に通過しなかった教科書は 2002 年の新学期から使用停止とする。

4 教員研修

- ・教員育成は基本条件であり、差し迫った需要を解決しなければならない。
- ・他教科の担当教員は英語への変更のため研修を行い、合格すれば英語の担当教員になる。師範教育機関に英語専攻を設置する。

- ・地域の実情に応じて、教員の配置、授業数、任用、給与待遇に合理的な規定を作る。
- ・優秀な英語教員を集めるため、各地域は現場の状況に基づき、適切な奨励政策を採用してもよい。

5 視聴覚教材・教育実験

- ・小学校は有線テレビ、ビデオ、録音機器などの設備を整備しなければならない。
- ・環境整備が遅れている地域では、村の間を結ぶ通信ネットワークや教育部がつくる学校間通信ネットワークを十分に活用すること。
- ・カリキュラムと指導方法の科学研究を強化する。教育部は全国小学校英語教育指導委員会を設けて、全国の小学校に英語の教育活動、科学研究についての指導を行う。地域レベルの教育研究部門には研究指導員を置いて、英語教員に学習指導研究を行わせるようにする。
- ・各地域では「モデル学級」「モデル校」「モデル地区」を計画的に設置し、教育改革の実験を行い、結果を総括して先進的な事例を広める。

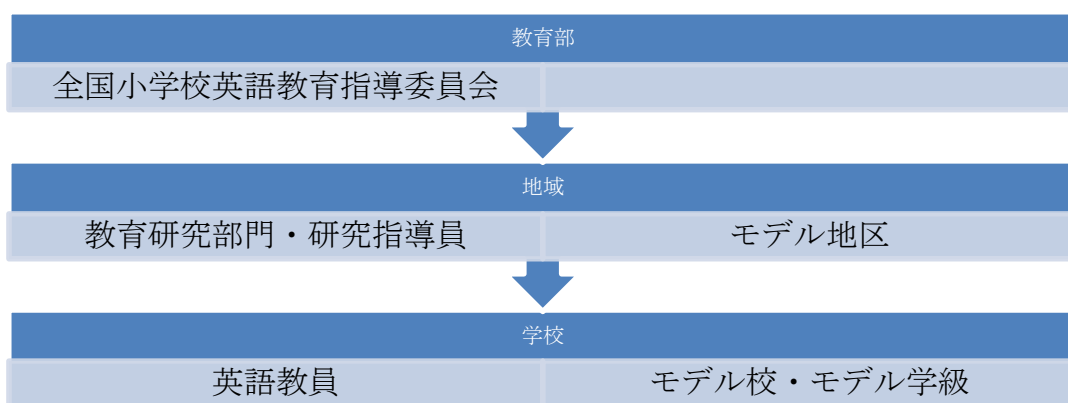


図5 教育実験・研究指導の流れ

5) 「小学校英語教育基本要求」

教育部は「指導意見」の付随文書として「小学校英語教育基本要求（以下基本要求）」を明文化した。「基本要求」では、教育現場に対して英語カリキュラムをつくる際の必要事項を伝えた。

表3 「小学校英語教育基本要求」（訳）

小学校の英語教育の基本要求（試行） 今日の世界では、情報技術を主要な指標として科学技術が急速に進歩しています。社会生活の情報化と経済活動のグローバル化により、外国語、特に英語は、中国の対外開放と国際交流にとってますます重要なツールとなっています。外国語の学習と習得は、21世紀の公民にとって基本要求です。 近年、小学校で英語教育を行っている地域が増加し、規模も急速に拡大しています。今

回の実験プロジェクトの導入は、小学校の英語教育を積極的に推進するための経験と基盤を提供します。質の高い教育を包括的に推進し、21世紀の中国の国家総合的な質の向上のニーズを満たすために、教育部は2001年秋から、小学校での英語教育を積極的に推進することを決定しました。全国の小学校の英語教育を導くために、「小学校英語教育基本要求（試行）」を制定し、小学校の英語カリキュラム、教育評価、教科書の検定と選択使用の主な根拠とします。

I 目標

小学生の身体的および心理的特性と発達ニーズに応じて、小学校段階の英語教育の目的は、生徒の英語学習への興味を引き出し、英語学習に対する前向きな姿勢を養い、英語学習に自信を持たせることです。自然な発音とイントネーションの基礎を育成すること、英語で簡単な日常会話を行うための初歩を身に付けさせ、さらなる英語学習のために基礎を築きます。

2 開始学年と授業時間配分

小学校の英語教育は3年生から始まります。授業の質と指導の効果を確保するために、小学校の英語授業は、短い授業時間と長い授業時間を組み合わせ、頻度を高めるという原則に従って、週に4回以上の学習活動を保証しなければいけません。3年生と4年生は主に短い授業で、5年生と6年生は短い授業と長い授業を組み合わせしており、そのうち長い授業は週2コマ以上とします。

3 学習指導目標と要求

現在、小学校の英語教育には2つのレベルの学習指導目標があります。小学校3年生と4年生の学習指導目標は1級、5年生と6年生は2級です。地域の状況に応じ、2級以上の目標にしても、また困難な地域では各省の教育管理部门の許可を得れば、目標を適切に下げることができます。

6) 「新課程」による授業内容

中国では、日本の学習指導要領にあたる「新課程（試行案）」において、英語教育を初等教育から後期中等教育まで（日本の小・中・高校）の一貫した指導体系を組み立てた。「新課程」では英語教育を「資質教育」として位置づけて、「総合的な言語運用能力の育成」という目標を立て、その目標を以下の5つの要素に分けた。

- ① 言語技能 「読む・聞く・話す・書く」の4技能を習得する
- ② 言語知識 発音・文法など基礎知識を習得する
- ③ 感情・精神 興味・動機を引き出し、自信・協力精神・愛国主義精神を育てる
- ④ 学習能力 認知能力・自主的な学習能力・コミュニケーション力を育てる
- ⑤ 文化意識 西欧文化への理解・異文化間の交流意識と能力を育てる

小学校の英語授業は週4回以上。1回20分または40分の組み合わせとなった。低学年では20分の授業が中心だが、高学年になるにつれて40分の授業を組み入れ、5年生以上は40分授業が週2回以上となった。

小学校の英語教育に対しては、入門段階であることから以下の3つの目標を定めた。

- ① 英語に対する好奇心や興味を養い、積極的な学習態度を育成し、英語学習に自信を持たせる
- ② 英語のリズムやイントネーションに慣れ親しませ、自然な発音を身につけさせる
- ③ 英語による日常コミュニケーション能力を養成する

こうした目標を実現するため、授業では英語学習を楽しんでいるように、簡単な英語による遊び・動作・作業、歌やロールプレイを行うなどの活動を中心に展開した。また、言語による実践的なコミュニケーション能力の育成を重視し、文法は特に教えなかった。

第3項 本格的導入期（2005年～）

1) 時代背景と政府の動き

2001年に作成された「新課程（試行案）」は当初2004年に全国実施の予定だったが、2005年9月から全国実施となった。

2) 開始学年と導入地域

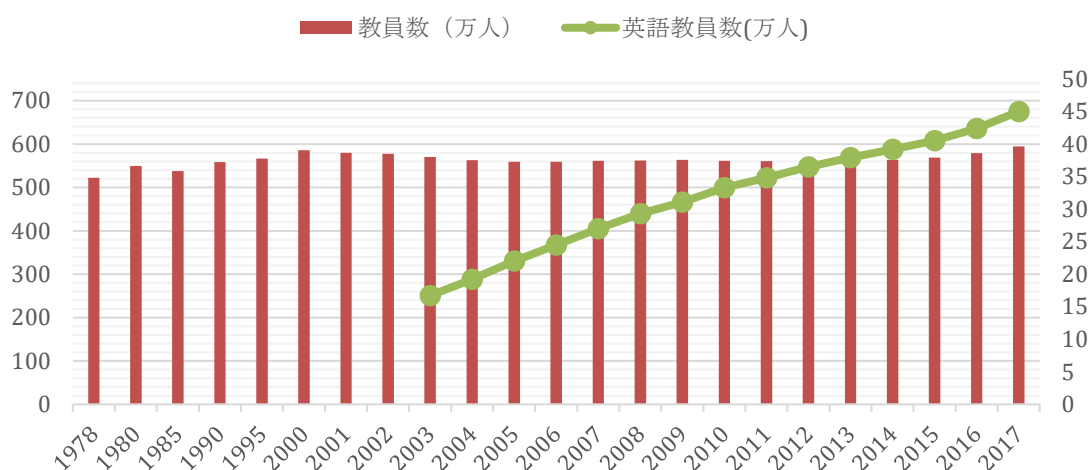
北京、上海、天津市は小1からの英語教育が、ほぼ100%導入された。また発展している沿海部の各省と全国の省都では小3からほぼ100%導入された。農村部では中心都市は小学校3年生からほぼ導入されたが、当初は実施されない地域も多かった。

表4 早期英語教育導入時期

	1978年	2001年	2005年
上海・北京市など	小学校3年	小学校1年—————>	
全国	中学校1年———>	小学校3年———> (一部地域)	小学校3年 (ほぼ全国)

3) 教員の採用と育成

中国教育統計によると、2003 年当時外国語教員数は約 16 万 7 千人であったが、2005 年には 22 万人と 5 万 3 千人増えた。同じ期間、すべての教員数は 570 万 3 千人から 559 万 2 千人に 11 万人減少していた。外国語教員数のうちロシア語と日本語は、2009 年当時で合わせて 300 人程度であった。



(2008 年以前の「英語教員数」はロシア語・日本語を含む。2002 年以前は NA)

図 6 中国の小学校教員数と英語（外国語）教員数の推移

日本で行われている A L T（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）制度を、中国では国として行わず学校が英語ネイティブを独自に招聘した。国が行わない理由は、教員が自ら視聴覚教材を活用して英語教育を行うことを奨励したためであった。また地域・民間人材（大学生ら）のボランティア活用も行われた。

4) 新教育カリキュラム

英語（外国語）は下表のとおり、全カリキュラムの中で 6～8%の割合を占めていた。時間数のうち 10%程度は地域や学校に自由裁量があり、科目の配分が任されていた。

表 5 小学校の教育課程基準（2005 年当時）

	品德と 社会	科学	言語・ 文学	数学	外国語	体育	芸術	総合実 践活動	週時間
1~2 年	○		○	○		○	○		26
3~4 年	○	○	○	○	○	○	○	○	30
5~6 年	○	○	○	○	○	○	○	○	30~34

時間数は単位時間。1 単位時間は 40 分

5) 教科書制度

中国の教科書制度は、1980 年代半ばまでは教育部の直属機関である「人民教育出版社」が全国共通教科書を執筆・編集していた。しかし生徒の学力や教員の質が地域ごとに異なる実情を反映しないと判断し、1980 年代後半以降は多様な機関・個人が執筆・編集する複数の教科書を国の検定を経て発行し、各地域が選択して使用することになった。教科書作成には外国からの直輸入、外国の専門家と作成、外国の教科書を改訂、中国が独自に編集する、の 4 つのパターンがあった。

現在、教科書はすべての児童に配布されるが、ネットの普及とともにウェブサイトで閲覧できダウンロードも可能になった。このウェブサイト創設の背景には、教育熱心な親が子どもの使用している教科書の内容を知りたい、上の学年の教科書を先取りして家庭で学ばせたいというニーズがある。

小学校卒業までに覚える単語は 600～700 語程度で、数字や色、時間、天気など身近な話題で使う単語、慣用句（50 程度）が中心であった。

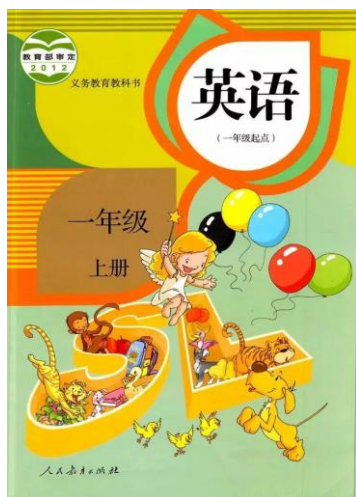


図7 英語教科書小学校1年上表紙

小学校で使う英語教科書は、実用的で身近な単語や慣用句が使われていたが、小4の教科書にはスポーツに関する単語が下図のように running、basketball、roller skating、jumping rope、ping-pong など見られた。

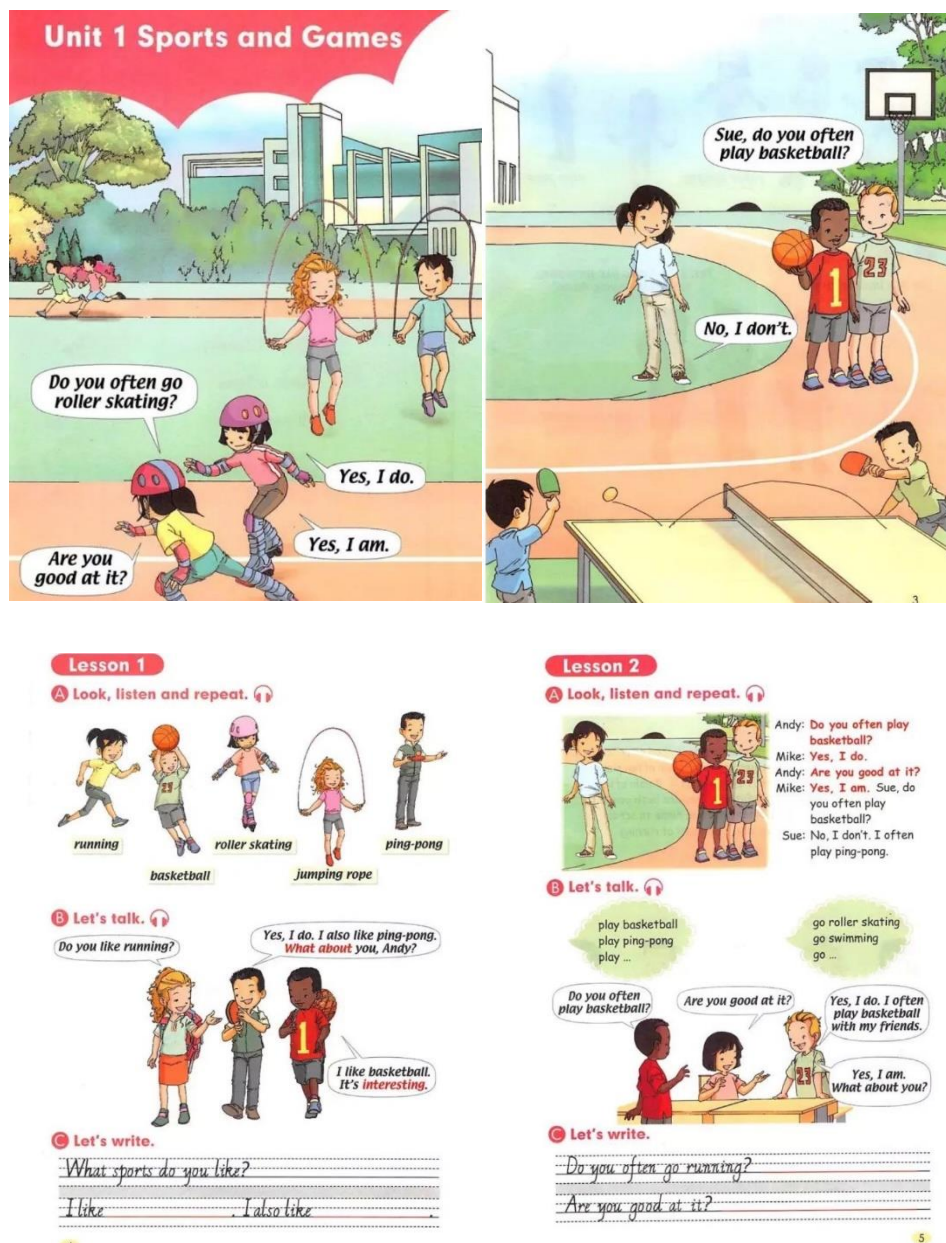


図8 英語教科書小学校4年生上

このうち basketball（バスケットボール）と ping-pong（卓球）は、中国で最も人気のあるスポーツの一つである。

第3節 早稲田大学留学生と中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査結果

第1項 回収数と回答者の属性

早稲田大学・大学院に在学する中国人留学生およそ600名に配布したうち、計119件の回答を得た（回収率19.8%）。回答者の属性は下表のとおりであった。年齢は24歳以下が71.5%であった。24歳以下の世代は、2001年の早期英語教育導入以降に小学校に入学した世代である。

表6 早稲田大学留学生のアンケート調査の回答者属性（N=119）

区分1	区分2	回答数	割合
性別	男性	57	47.9%
	女性	62	52.1%
年齢	10歳代	20	16.9%
	20~24歳	65	54.6%
	25~29歳	31	26.0%
	30歳代	3	2.5%
学歴（早稲田入学前）	中国の高校卒	49	41.2%
	中国の大学卒	43	36.1%
	中国の大学院卒	7	5.9%
	日本の高校卒	3	2.5%
	日本の大学卒	5	4.2%
	日本の大学院卒	2	1.7%
	そのほか	10	8.4%
中国の居住地	北京	16	13.4%
	上海	17	14.3%
	広州	7	5.9%
	深圳	6	5.0%
	南京	11	9.2%
	天津	5	4.2%
	そのほか	49	41.2%
	答えたくない	8	6.7%

中国国内の大学生・大学院生に Web 調査を行ったところ（SNS「We Chat」のモーメンツ機能を利用）、計 451 件の回答を得た。回答者の属性は次表のとおりであった。年齢は 24 歳以下が 61.4%であった。

表 7 中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査の回答者属性（N=451）

区分 1	区分 2	回答数	割合
性別	男性	145	32.2%
	女性	287	63.6%
	そのほか	19	4.2%
年齢	10 歳代	138	8.4%
	20~24 歳	239	53.0%
	25~29 歳	57	12.6%
	30 歳以上	17	3.8%
学歴	大学生	364	80.7%
	大学院生	87	19.3%
最初に英語を学んだ地域	北京	59	13.1%
	上海	63	14.0%
	広州	52	11.5%
	深圳	22	4.9%
	香港	13	2.9%
	そのほか	175	38.8%
	答えたくない	67	14.9%

第2項 回答者の家庭環境

早稲田大学留学生の回答者の家庭環境に関する回答は次表のとおりであった。父親は管理職が最も多く母親は専門職が最も多かった。ほか父親の職業では専門職や公務員、母親では事務職が多かった。世帯所得ではアッパーミドルと呼ばれる「1万円くらい」が29.4%、「5万円くらい」が26.9%であった。また、富裕層と言われている「10万元以上」は3.4%であった。

表8 早稲田大学留学生のアンケート調査の回答者の家庭環境 (N=119)

区分1	区分2	回答数	割合
父親の職業	公務員	20	16.8%
	専門職（医師・弁護士・教師など）	26	21.8%
	管理職（会社経営者など）	33	27.7%
	事務職	13	10.9%
	そのほか	13	10.9%
	不明	2	1.7%
	答えたくない	12	10.1%
母親の職業	公務員	11	9.2%
	専門職（医師・弁護士・教師など）	28	23.5%
	管理職（会社経営者など）	20	16.8%
	事務職	25	21.0%
	そのほか	14	11.8%
	専業主婦	10	8.4%
	不明	3	2.5%
	答えたくない	8	6.7%
月収	1000 元くらい	1	0.8%
	5000 元くらい	5	4.2%
	1 万円くらい	35	29.4%
	5 万円くらい	32	26.9%
	10 万元以上	4	3.4%
	不明	19	16.0%
	答えたくない	23	19.3%

中国国内の大学生・大学院生の家庭環境に関する回答は次表のとおりだった。父親の職業は公務員、専門職と管理職が多く、母親は専門職と専業主婦が多かった。世帯所得ではアップーミドルと呼ばれる「1 万元くらい」「5 万元くらい」が合わせて 4 割を超え、富裕層とされている「10 万元以上」が 1 割弱であった。

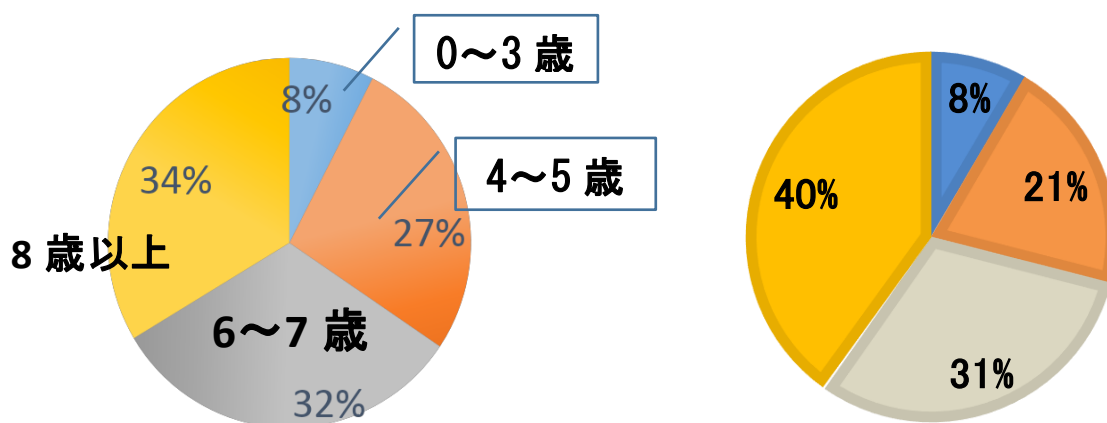
表 9 中国国内の大学生・大学院生のアンケート調査の回答者の家庭環境 (N=451)

区分 1	区分 2	回答数	割合
父親の職業	公務員	62	13.7%
	専門職（医師・弁護士・教師など）	58	12.9%
	管理職（会社経営者など）	49	10.9%
	事務職	28	6.2%
	専業主夫	12	2.7%
	サービス業	34	7.5%
	農林漁業	36	8.0%
	営業・販売業	30	6.7%
	そのほか	107	23.7%
母親の職業	公務員	38	8.4%
	専門職（医師・弁護士・教師など）	73	16.2%
	管理職（会社経営者など）	41	9.1%
	事務職	28	6.2%
	専業主婦	78	17.3%
	サービス業	44	9.8%
	農林漁業	18	4.0%
	営業・販売業	35	7.8%
	そのほか	77	17.1%
月収	1000 元くらい	27	6.0%
	5000 元くらい	114	25.3%
	1 万元くらい	145	32.2%
	5 万元くらい	46	10.2%
	10 万元以上	30	6.7%
	不明	60	13.3%
	答えたくない	29	6.4%

第3項 全体集計

1) 英語学習開始年齢

「あなたは英語を何歳から学び始めましたか？」との設問に対する回答は、次図の通りであった。就学前に英語学習を開始したとの回答が、早稲田大学留学生（以下「早稲田」）が「0～3歳」「4～5歳」合わせて35%、中国国内の大学・大学院生（以下「中国国内」）で29%であった。また、「6～7歳」の回答が、早稲田で32%、中国国内で31%であった。中国全国で義務教育が始まる小学校3年生までに、およそ3人に2人が英語学習を開始した。

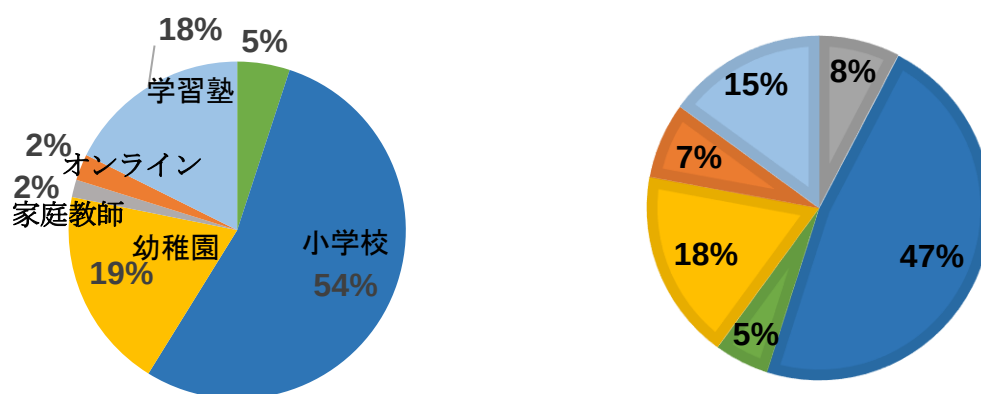


早稲田大学留学生 (N=119)

中国国内の大学生・大学院生 (N=451)

図9 英語学習開始年齢 [全体集計]

英語を初めて学んだ場所は次の図の通りであった。早稲田では「小学校」が半数以上を占めた一方、「学習塾」、「幼稚園」がそれぞれ2割弱、中国国内は家庭教師やオンラインが1割弱ずつであった。



早稲田大学留学生 (N=119)

中国国内の大学生・大学院生 (N=451)

図10 英語を初めて学んだ場所 [全体集計]

早稲田では、居住地と英語開始年齢をクロス集計した。都市部の中で上海の居住者は9割以上が小学校1年生～2年生までに英語学習を開始していた。

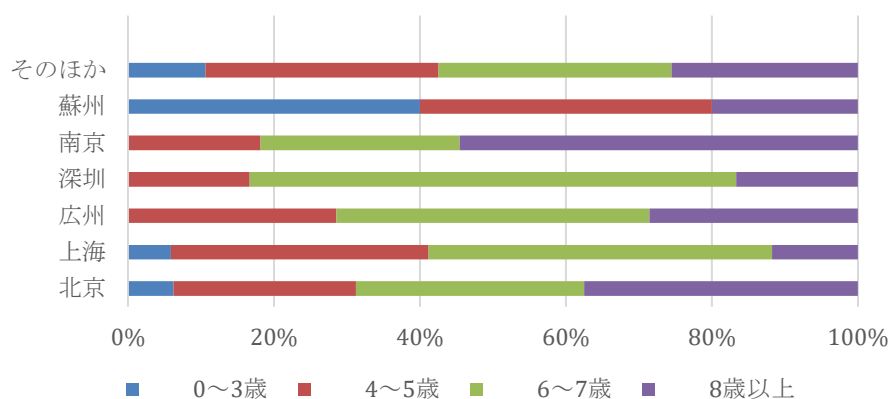
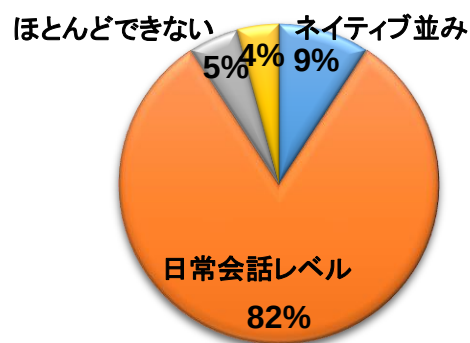


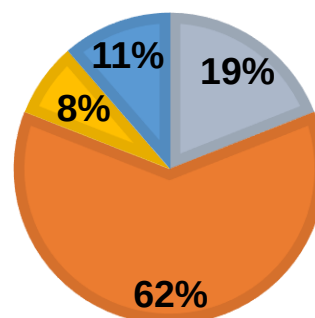
図 11 居住地と英語開始年齢 [クロス集計]

2) 英語能力に関する自己評価

自身の英語能力について「あなたは自分の英語能力をどのレベルだと思いますか？」の設問に対する回答は次図のとおりであった。早稲田、中国国内とも「ネイティブ並み」との回答が1割程度で、「日常生活レベル」との回答は早稲田が8割を超え、中国国内が6割を超えた。



早稲田大学留学生 (N = 119)

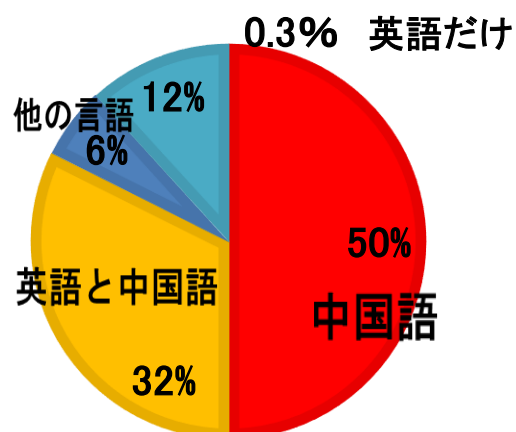


中国国内の大学生・大学院生
(N = 441 無回答 10)

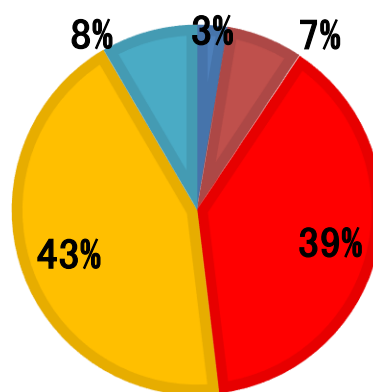
図 12 英語能力に関する自己評価 [全体集計]

3) スポーツ情報収集言語

「あなたはスポーツのニュースや情報を、英語と中国語のどちらを使って入手しますか？」との設問に対して早稲田は「英語と中国語の両方使う」が3割を超え、中国国内は4割を超えた。中国国内では「英語だけ」が7%であった。



早稲田大学留学生 (N=119)



中国国内の大学生・大学院生 (N=451)

図13 スポーツ情報収集に活用する言語[全体集計]

早稲田のアンケートでは、スポーツの情報収集の言語別に外国スポーツへの好意性をクロス集計した。「あなたは好きな外国のスポーツ・リーグやチーム、選手はいますか？」との設問に対して、英語と中国語を活用する留学生は「いる」との回答が6割を超え、中国語だけを上回った。

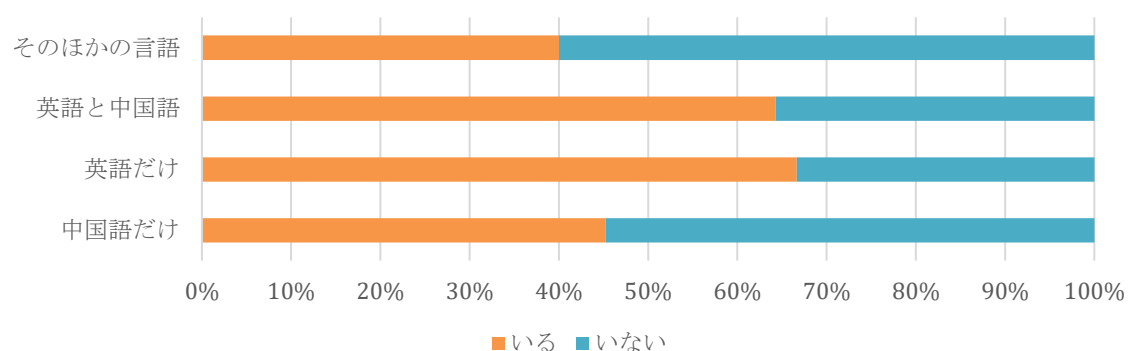


図14 スポーツ情報収集の言語と外国のスポーツへの好意性 [クロス集計]
(N=92 回答の「わからない」「知らない」は除く)

第4項 世代別集計

アンケートの回答者を3つの世代に分け集計した。早期英語教育導入の2001年以前に義務教育を始めた25歳以上を「準備期」、2001年以降に義務教育を始めた24歳から21歳を「実験的導入期」、全国に導入した2005年以降に義務教育を始めた20歳から18歳を「本格的導入期」と定義づけた。

1) 英語試験の結果

「最近二年間で受験した試験の最高得点を教えてください」の設問に対して、次表のとおり早稲田では「TOEFL」の最高得点の平均スコアで、準備期が89.0、実験的導入期では88.6で、本格的導入期の学生が96.7と最も高かった。「IELTS」も本格的導入期が最も高かった。

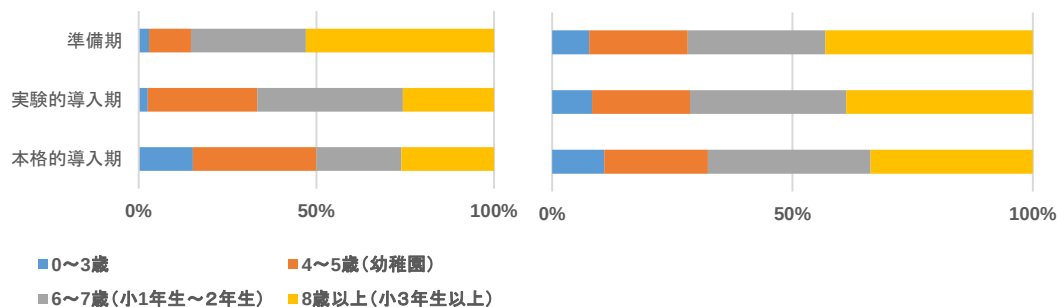
「TOEIC」では、準備期が775.2点と最も高く、実験的導入期が743.8点、本格的導入期は受験者がいなかった。中国国内では「TOEFL」は準備期が最も高く、「IELTS」は本格的導入期が最も高かった。

表10 英語検定試験の結果 [世代別集計]

		全体平均	25歳以上 (準備期の教育を受けた世代)	21歳から24歳 (実験的導入期の教育を受けた世代)	18歳から20歳 (本格的導入期の教育を受けた世代)
TOEIC	早大留学生	762.1	775.2	743.8	—
	中国国内大学生	893.3	—	893.3	—
TOEFL	早大留学生	91.2	89.0	88.6	96.7
	中国国内大学生	91.0	98.8	89.8	86.8
IELTS	早大留学生	6.65	6.5	6.4	6.9
	中国国内大学生	6.8	6.5	6.9	7.1

2) 英語学習開始年齢

「あなたは英語を何歳から学び始めましたか？」の設問に対して、次表のとおり早稲田では本格的導入期の「0～3 歳」と「4～5 歳（幼稚園）」の回答が合わせて約半数であった。準備期は 15%、実験的導入期は 31%で、若年者ほど就学前に英語学習を始めていた。中国国内も同様に、若年者ほど就学前に英語学習を始めた。



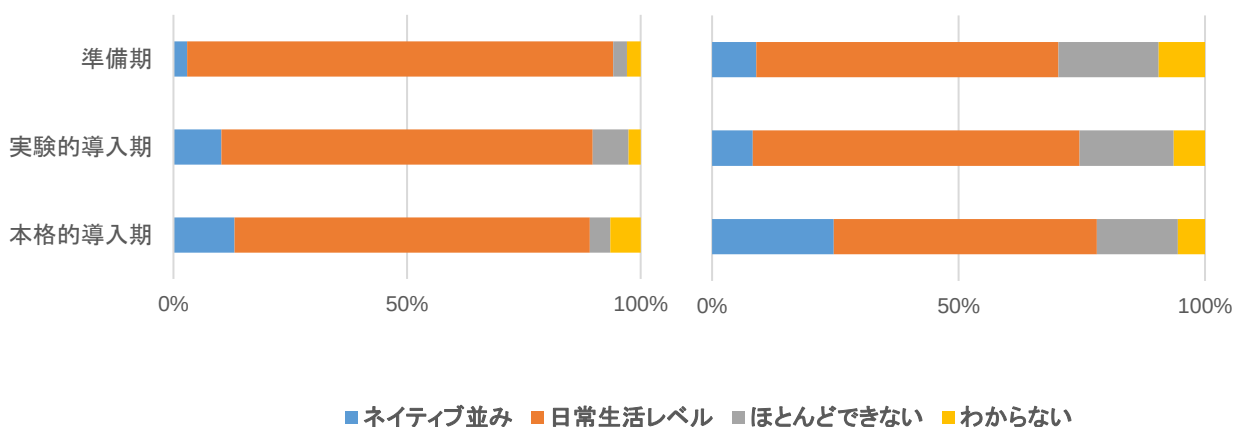
早稲田大学留学生 (N = 119)

中国国内の大学生・大学院生 (N = 451)

図 15 英語開始年齢 [世代別集計]

3) 英語能力の自己評価と動機

「あなたは自分の英語能力をどのレベルだと思いますか？」の設問に対して、早稲田では準備期は「日常生活レベル」が9割以上で、若年者になるほど「ネイティブ並み」が増えた。中国国内でも若年者になるほど「ネイティブ並み」が増えた。



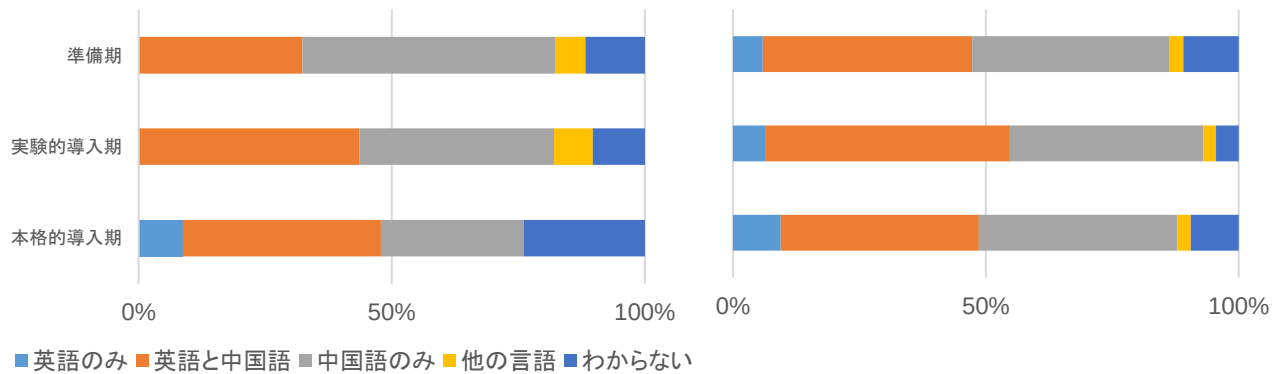
早稲田大学留学生 (N = 119)

中国国内の大学生・大学院生 (N = 451)

図 16 英語能力の自己評価 [世代別集計]

4) 英語とスポーツ

「あなたはスポーツのニュースや情報を、英語と中国語のどちらを使って入手しますか？」の設問に対して、早稲田では若年者になるほど「英語のみ」と「英語と中国語」を合わせた回答が増えた。中国国内では若年者になるほど「英語のみ」の回答が増えた。



早稲田大学留学生 (N = 119)

中国国内の大学生・大学院生 (N = 451)

図 17 スポーツの情報収集に活用する言語 [世代別集計]

第4節 現地ヒヤリング調査

第1項 北京大学附属小学校英語主任

ヒヤリングは2020年1月13日に北京市内で行った。対象者は北京大学附属小学校の学長補佐（日本の副校長にあたる）兼英語主任 張（ちゃん）氏であった。張氏は1971年江蘇生まれで、1995年に北京大学附属小学校の英語教員になり、英語教員歴約25年である。



図18 北京大学附属小学校

以下ヒヤリング調査報告。

① 張氏の経歴

1971年江蘇生まれ。高校卒業後専門学校に通い、1995年に北京大学附属小学校に赴任して以降英語教員。北京大学附属小学校では教員として働きながら大学に通い、首都師範大学の大学院を卒業した。現在学長補佐兼英語主任。

② 張氏が育った英語学習環境

公立小学校で小3から英語を学び始めた。家庭では両親二人とも英語を話せず、学習塾には通わなかった。小学校での英語の授業は中国語が多く「翻訳法」にあたる方法で授業が行われた。

③ 張氏採用当時の北京大学附属小学校

1995年に北京大学附属小学校に履歴書や自己紹介文を持参し、英語教員が不足していたのですぐ採用された。当時は一学年に6クラス（1クラス児童約40人）あり、学校全体で1500人程度の児童がいた。現在は10クラスで2000人超。

④ 英語学習環境

1995年当時、英語の授業は小1から行われたが、授業数は1週間に1, 2コマであったため、張氏を含めた3人が授業を行った。学校では英語が重視されており、特に保護者のほとん

どが北京大学の出身者であり留学経験者も多かったので、子どもの英語学習を重視していた。小学校から中学校に進学する際に中国語、数学のほか、英語の試験があったことも保護者が英語学習を重視した理由だった。当時の1, 2年生の授業は20分のコマがあったが、現在は20分が無くなりすべて40分。現在の授業数は1~4年生は週3コマで、5~6年生は週4コマ。英語教員は14人。

北京大学附属小学校には1995年当時からALTがいるが、中国人の教員も中国語より英語を使って授業を行っている。文法は小学生には難しいのでほとんど教えない。リスニングとスピーキング、ライティングをメインとしている。発音やイントネーションは、1年生から視聴覚教材を使い、聴いてそのまま話すことを繰り返して覚えさせる。

⑤ 英語学習に対する認識

早期英語学習が中国語の習得の妨げになるという話を、張氏は1995年当時から聞いたことがない。6歳であれば母国語はすでにマスターしている。当時は6歳から英語学習を始めたが、現在は2歳や3歳から英語に接し、4歳から学習塾で英語学習を始めている子どもが多くいる。

「一生英語を使う必要がない人があるから英語教育は無駄だ」という話もこれまで聞いたことはない。北京では国際交流が多く、北京大学附属小学校では毎年日本や韓国、シンガポール、インドネシアの学校と国際交流を行っているほか、児童が米国、英国、豪州、カナダを訪問している。こうした環境の中で「英語は重要ではない、無駄だ」と考える教員や保護者を見たことはほとんどない。

⑥ 児童の英語能力の向上

北京では2001年の義務化以前から英語教育を行っており、北京大学附属小学校では2001年以前から英語を重視してきたので、2001年がきっかけに児童の英語能力が向上したということはない。英語能力が大きく向上したのは、特にここ5, 6年である。

⑦ 教員不足解消策

北京大学附属小学校では英語教員不足の解消のため、採用条件でほかの教科の教員に比べて英語教員が優遇されるということは無かった。英語教員が足りない場合は、中国語や数学の教員が兼任していた。私立学校の教員が兼任することは聞いたことがない。そもそも当時は私立学校がほとんど無かった。

⑧ 教員研修

北京大学附属小学校では、夏休みか冬休みの数か月間、英国の大学で研修する。また英語の担当教員は児童を率いて米国、英国、豪州、カナダの学校を訪問するなど交流活動を行う。ブリティッシュカウンシルによる英語研修もある。

⑨ 教科書・教材

2001 年以前は学校が教科書を選んでいましたが、以降は教育委員会が決めることになった。当時は教科書のみであったが、現在は多くの教材がある。視聴覚教材は 2001 年当時まだ無く、十数年前から開始された。

⑩ 社会環境

北京オリンピックをきっかけに社会が英語を重視する傾向になり、英語の学習塾に子どもを通わせ、子どもの留学を考える保護者が増えた。また経済発展で家庭の収入が増え、子どもの教育への投資額が増えた。今後も学習塾に通う子どもは増え、より多くの保護者が子どもの留学を考えるだろう。オンライン学習は、子どもの眼に良くないなどと支持しない保護者もいる。教育格差の拡大は避けられないと考えているが、勉強のできる子どもにもっと勉強させるのは問題ない。

表 11 張氏ヒヤリングまとめ

経歴	1995 年北京大付属小赴任 以降 25 年間英語教員
学校	生徒数約 2000 人 英語教員 14 人（赴任当時 3 人）
英語開始学年	小 1
教員採用	給与格差は大きくない
教員育成	英国の大学に短期留学制度
教科書	2001 年に教育委員会指定に変更
視聴覚教材	2000 年代半ばから使用
社会環境	北京五輪で社会が英語重視となり、親の留学熱・学習塾が増えた

第2項 上海市内公立小学校元英語教員

ヒヤリングは2020年1月19日に都内で行った。対象者は顧東妮（ぐー・どんに）氏。1975年生まれで出身地は浙江省。2歳から上海。師範学校卒業後、1994年上海市管弄新村小学校で数学の教員となり、2000年ごろ英語の教員に転属した。2003年上海大寧路小学校に転勤。2006年北京師範大学（4年生）通信制卒業。2014年英語教員を辞め夫の仕事の関係で来日。



図19 顧東妮（ぐー・どんに）氏

以下ヒヤリング調査報告。

① 顧氏の経歴

顧東妮（ぐー・どんに）氏は1975年浙江省に生まれ2歳から上海で育った。中学卒業後上海市松江師範学校を卒業し、1994年9月に上海市管弄新村小学校の数学教員。教員として働きながら上海師範大学（2年制）を卒業し2000年頃英語教員となった。その後2006年に北京師範大学の通信制（4年制）を卒業し上海大寧路小学校に転勤したが、夫が中国系鉄鋼会社の日本支社に転勤することになり教員を辞めてともに来日し現在に至る。

② 顧氏が育った英語学習環境

英語学習を開始したのは中学校。当時上海の周辺では中学校から英語学習をしていた。中学の授業は文法中心で、発音は少なかった。師範学校では英語も学び英語の成績がよかった。

③ 顧氏採用当時の上海の公立小学校

上海の平均的な公立小学校。市の中では「中の上」のレベルであった。当時の学校の規模は、3クラス（1クラス40人程度）5年制で児童数600人程度であった。上海では小学校の教員・教室が足りないため小学校は5年制、初級中学が4年生となっている。

④ 英語学習環境

2000 年頃英語教員は学校に 2 人だったが、義務化に伴い顧氏のほか中国語の教員も英語教員となり 5 人となった。当時授業は週 3 回。小 1 は 20 分授業だったが、小 2 からは 40 分授業。小 1 では、教員が授業で児童に指示する際に使う英語（「これを見て」「会話して」など）を児童に覚えさせた。小 2 からは完全に英語だけとなり、歌やロールプレイ、ダンスを取り混ぜ、英語の慣用句や単語を歌の中で覚えさせた。

発音やイントネーションの学習は、低学年のうちに習得するようにしている。視聴覚教材（音声テープ）を聴き、宿題で教材の音読を録音させて提出させることを行った。宿題は教員がチェックするほか、授業では教材の暗唱を児童のリーダーがチェックした。文法は小 4、5 から教えた。

ALT は 2010 年代にネイティブスピーカーが学校に来るようになり、週 1 回授業をするようになった。授業では顧氏は教室の後ろにいて児童が騒がないよう注意するのみで、通訳をしなかった。

⑤ 英語学習に対する認識

英語教育が小 3 から小 1 に変わった際、保護者からの反対は特に無かった。教員の間では「小 3 からでも大変なのに」という声があったのを聞いたが、「母国語の習得の妨げになる」という批判は聞いたことがない。中国語は基本であり、40 分授業を毎日 2 回行って、週 3 回程度の英語とは学校教育において重みが違う。英語が中国語のローマ字（ピンイン＝ローマ字を使って中国語の発音を表したもの）と混乱するとの懸念はあったが、問題無かった。また「一生英語を使わない国民がいるのに、資源の浪費」という批判も聞いたことはない。

⑥ 児童の英語能力の向上

児童の英語開始年齢は低下しており、多くは幼稚園から開始している。

⑦ 教員不足解消策

1994 年当時は師範学校を卒業すると小学校の教員になった。就職先となる学校は師範学校によって決められ、担当教科は赴任した小学校の校長先生が指定した。赴任当時は数学の教員が不足していたので数学を担当したが、2000 年頃英語が 3 年生から 1 年生になったため英語教員が不足し、校長から英語担当になるよう命じられた。

顧氏が教員になった 94 年当時は、教員の給与は資格によって違う程度であったが、2000 年以降は学校側が「優秀教師」と認定した教員は賞与が増えた。教員不足の学校に他の公立や私立の教員が兼任することは聞いたことがない。

⑧ 教員研修

2000 年頃顧氏を含めた数人の教員が、夏休みの 1 ヶ月半程度外国人を呼んで泊まり込みの英語研修をした。2006 年に転勤した小学校では 1 ヶ月半程度の英国研修があった。研修にかかる費用は、教育部が 3 分の 1、学校が 3 分の 1、残り 3 分の 1 は自己負担であった。

⑨ 教科書・教材

教科書は教員在職中 3 回変わった。視聴覚教材は 2010 年代から増えたが、2000 年代は教員の手作りの英単語カードを使っていた。

⑩ 社会環境

顧氏が教員になった 94 年当時の上海の公立小学校は、90%近くが上海の出身者で、保護者の英語教育に対する意識が高く、家庭で子どもに英語を勉強させていた。2008 年頃から地方の人口流入が増え富裕層の上海出身者は私立学校に子どもを入学させるようになり、公立学校では上海出身者が 2～3 割しかいなくなった。一方、地方出身の保護者も英語教育への意識が高く、受験のための英語教育を学校に要望した。地方出身者と上海出身者の英語能力に差はほとんど無かった。

顧氏は、中国が開放政策をとる限りオンライン教育は増えると予想する。上海ではほぼすべての家庭が子どもの留学を希望している。教育格差は経済格差のほかに地域格差がある。最近では農村部に教育支援に行く教員が多いが、英語教員は都市部で不足しており農村部に行くことができない。

表 12 顧氏ヒヤリングまとめ

経歴	1994 年上海公立小学校数学教員 2000 年頃英語教員～2014 年まで
学校	生徒数約 600 人（5 年制）英語教員 3 人（赴任当時）
英語開始学年	小 1
教員採用	2001 年頃から「優秀教師」に賞与増
教員育成	英国で短期英語研修
教科書	2001 年以降 3 度変更
視聴覚教材	2010 年代から
社会環境	流入した農村部の親も英語に熱心だった

第3項 北京市内体育センター・スポーツバー利用者

北京市が1957年に創設した「東単体育中心（センター）」は、北京市内にある体育センターで、複数のバスケットコートとサッカー場がある（面積1万5千㎡）。利用者数は一日最大約1万人で、「中国ストリートバスケットの地」であり「聖地」と呼ばれている。

2020年1月12日、利用者にスポーツと英語への意識についてヒヤリング調査を行った。



図20 北京東単体育中心

23歳男性（大卒）

① 好きなスポーツ・選手

バスケットボール。コービー・ブライアント

② スポーツの情報収集言語

英語だが、中国語訳込み

③ スポーツと英語の関連性

かつて最新情報を入手するために英語学習をしたが難しく諦めた

29歳男性（美術教員）

① 好きなスポーツ・選手

バスケットボール。コービー・ブライアント

② スポーツの情報収集言語

中国語

③ スポーツと英語の関連性

英語の必要性は感じないが、子どもが海外でスポーツをするためには重要

32歳の女性（ジャーナリスト）

① 好きなスポーツ・選手

サッカー。好きな選手はいる

② スポーツの情報収集言語

中国語・英語

③ スポーツと英語の関連性

スポーツが英語学習の原動力。海外のスポーツが好きで、最新情報を入手するために小5から英語を勉強した。

40代と見られる男性（父親）

① 好きなスポーツ・選手

特になし（子どもはサッカー）

② スポーツと英語の関連性

子どものために外国人のサッカーコーチを雇用したが、中国語ができるのが条件。コーチの際に英語だけなのは子どもが理解できるか不安なため。スポーツに限らず、海外に行くのが希望なら英語は重要

18歳男性（大学生）

① 好きなスポーツ・選手

バスケットボール。いる

② スポーツの情報収集言語

中国語がメイン。英語も少し

③ スポーツと英語の関連性

外国人とバスケットをやる際のコミュニケーションとして

18歳の男性（大学生）

① 好きなスポーツ・選手

バスケットボール。コービー・ブライアント

② スポーツの情報収集言語

中国語・英語

③ スポーツと英語の関連性

スポーツが英語に役立つこともあるが、通常の英文の読解力として英語を活用

18歳の男性（大学生）

① 好きなスポーツ・選手

バスケットボール、卓球、サッカー。ジェームス・ハーデン

② スポーツの情報収集言語

ほとんど中国語

③ スポーツと英語の関連性

英語のスポーツ番組はたまに観る。大きな関係性はない。

表 13 体育センター利用者ヒヤリングまとめ

属性	好きなスポーツ 選手	情報収集言語	スポーツと英語との関連性
23歳男（大卒）	バスケ・コビー	英語・中国語	英語の学習はあきらめた
29歳男（先生）	バスケ・コビー	中国語	海外希望の子どもに英語は重要
32歳女（記者）	サッカー	英語・中国語	スポーツが英語学習の原動力に
40代男（父）	サッカー（子）		海外希望の子どもに英語は重要
18歳男（大学）	バスケ		スポーツが英語に役立つことも
18歳男（大学）	バスケ・コビー	英語・中国語	情報収集が英語学習に役立つ
18歳男（大学）	バスケ・卓球	英語・中国語	英語のスポーツ番組たまに観る

北京市内のスポーツバー「Paddy O'Shea's」にて、2020年1月12日、中国人客にヒヤリング調査した。



図 21 北京市内のスポーツバー「Paddy O'Shea's」

27歳女性（会社員）

① 好きなスポーツ・選手

テニス。ジョコビッチ

② スポーツの情報収集言語

テニスは中国でメジャーではないので、情報収集に英語が必要

③ スポーツと英語の関連性

スポーツに限らず海外情報を知るために英語は必要

第4項 北京市内青少年サッカークラブ

2020年1月14日北京市内で「北京長白虎青少年サッカークラブ」のコーチ、児童とその保護者にヒヤリングを行った。このサッカークラブは所属選手が120人（2018年）。平日放課後の練習時間では模擬試合などを行っている。



図22 北京長白虎青少年サッカークラブ

40代の母親（子ども6歳）

① 子どもの英語開始年齢

3歳から始めた。幼稚園に外国人の先生がいて毎日30分程度子どもと歌ったり遊んだりしながら英語を教えていた。子どもは簡単な挨拶ができるレベル。

② 子どものサッカー開始

健康のためにサッカーをさせている。

③ 子どものサッカー情報収集言語

試合などに関心は無い。アニメは英語で観ている。

④ 子どもへの英語に関する指導

成績次第で留学を検討。成績が良ければ中国国内の大学に進学してほしい。

40代の母親（子ども7歳）

① 子どもの英語開始年齢

5歳頃、幼稚園で始めた。発育が他の子どもより遅かったので、英語を学ぶと中国語の妨げになることを心配し、英語の学習塾は小1になってから行かせた。

② 子どものサッカー開始

チームプレイをするスポーツだから。

③ 子どものサッカー情報収集言語

中国語。

④ 子どもへの英語に関する指導

子どもが将来プロサッカー選手になりたい希望があるので、海外に行きたいなら英語をしっかり勉強するよう言っている。

40 歳の母親（子ども 7 歳）

① 子どもの英語開始年齢

5 歳頃、英語の学習塾で開始。外国人が英語で話す授業。

② 子どものサッカー開始

父親が決めた。

③ 子どものサッカー情報収集言語

英語・中国語。サッカーの番組を観るために英語学習をしている。

④ 子どもへの英語に関する指導

子どもは海外でサッカーのプロ選手になる夢があるので、英語をしっかりと勉強させる。子どもには米国か英国に留学させたい。

38 歳の母親（子ども 7 歳）

① 子どもの英語開始年齢

4 歳。

② 子どものサッカーの開始

子どもが選んだ。父親がサッカーの元プロ選手。

③ 子どものサッカー情報収集言語

ほとんど中国語だが英語も少し。

④ 子どもへの英語に関する指導

プロになるならスキルと語学力が必要と言っている。

46 歳の母親（子ども 6 歳）

① 子どもの英語開始年齢

4 歳。オンライン学習。

② 子どものサッカーの開始

体質改善のため 5 歳から。

③ 子どものサッカー情報収集言語

中国語。

④ 子どもへの英語に関する指導

英語の番組を観たいなら英語をしっかりと勉強すれば理解できる。

40 代のコーチ

① 子どもへの英語に関する指導

子どもの外国スポーツに対する憧れは強くなっている。その国のサッカーの理念を習得するには語学力が必要。

表 14 青少年サッカークラブの保護者らのヒヤリングまとめ

属性	子ども 英語開始	子どものサッカー 情報収集の言語	子どもへの英語に関する指導 /英語への意識
40代母	3歳	アニメは英語	成績悪ければ留学考える
40代母	5歳	中国語	プロになるなら英語学習
40代母	5歳	英語・中国語	プロになるなら英語学習
38歳母	4歳	中国語・英語少々	プロになるならスキルと言語必要
46歳母	4歳	中国語	番組見たいなら英語の勉強
40代 コーチ			外国スポーツへの憧れ強くなっている 理念を習得するには語学力が必要

表 15 青少年サッカークラブに通う子どもの意見まとめ

属性	英語 開始 年齢	サッカ ー開始 年齢	サッカー 情報収集 言語	サッカーと英語の動機付け
8歳男	小3	5歳		外国サッカー選手になるため英語を勉強中
8歳男		4歳	英語・中国語	番組観るのに英語学習する
9歳男		9歳	中国語	将来外国で英語とサッカーを学ぶ
10歳男	6歳	6歳	中国語	外国でスポーツするなら英語学ぶこと必要

第5項 北京市月壇中學生徒

来日した北京市立月壇中学校の生徒15名（高校生）を対象に、2020年1月20日、アンケート用紙を配り回答を回収した。月壇中学校は1963年に創設された北京で日本語を必修にする唯一の中高一貫校である。アンケート項目は、中国国内の大学生・大学院生を対象に行った調査と同じ内容（属性は項目に含まなかった）。

アンケート結果

- ① 英語開始年齢 15人中12人が小学校入学前に開始
- ② 英語の自己評価 15人中8人が日常生活レベル
- ③ 英語試験の受験経験 15人中全員経験無し
- ④ スポーツの情報収集に英語を活用 13人中1人

第4章 考察

第1節 早期英語教育導入の課題と克服について

中国は2001年の導入以降、発展的に実施地域を拡大し、児童期の英語教育の導入と英語の能力向上を遂げていた。中国でも導入時、日本の現在と同様に「母国語の習得の妨げになる」「農村部の住民など一生英語を使わない場合もあり資源の浪費」「教員不足で実施は無理」と早期英語教育の効果を疑問視する指摘がされていた。

本研究では、教育部がグローバル化に向けた社会的ニーズを背景に、「英語はこれからの国民的資質として必要」との指針を打ち出して課題に対応していった経緯が明らかになった。導入当時、教育部を司る国务院総理（首相に相当）は朱鎔基であったが、英語に堪能な朱氏が早期英語教育導入に対してリーダーシップを発揮し国を挙げて英語教育に取り組んだ可能性が考えられる。第4章では、早期英語教育導入過程において、中国が課題にどう対応したかを考察する。

第1項 全国への導入について

1) 地域格差について

中国は2005年に「誰もが平等に学べる機会」を目指して、全国への早期英語教育導入をほぼ成し遂げた。本研究では、教育部が導入時に各地域にカリキュラムの自由裁量を与え、地域や学校は実情に合わせて英語教育のカリキュラムを決めたことがわかった。

これは都市部と農村部や少数民族地域間に地域格差があることも理由であろうが、中国は全国で画一的に普及することより、地域の教育事情を重視した段階的な普及を目指した可能性が考えられる。王（2015）は、中国には生徒の能力や個性に応じ適切な方法を選ぶ「教無定法」という教育原則があると述べており、中国は地域においてもこの教育原則に準じたと考えられる。

地域格差について新保（2011）は、中国は地域条件が著しく異なるため、小学校の英語教科書においても実際の授業においても、都市部と比べると農村部及び少数民族地域は大きな差があると述べている。農村部や少数民族地域も含んだ地域別の児童の英語能力の統計はいまのところ見当たらず、現地調査は北京で行い農村部の調査を行うことができなかった。またアンケートでは居住地や英語開始地域は大都市である回答が半数近くとなり、早稲田の場合は日本に留学できるという学習環境に恵まれた学生からの回答であった。よって農村部で育った児童が18歳を超えてどのような英語能力なのかについては今後の研究が求められる。

2) 教育モデル設置について

大田（2013）は中国がPDCAサイクルを繰り返し、試行・改善を加えながら教育改革を進めていると述べている。2001年の早期英語教育の導入過程で教育部は、次表のようなPDCAサイクルを作っていたことがわかった。このPDCAサイクルでは教育部が計画した教育活動や科学研究を地域が実施し、総括したうえでモデルとなる先進事例を教育部が広めていた。こうしたモデル実験においても、中国は地域にモデル地区・学校・学級を選ぶ自由裁量を与えて

いたことがわかった。

表 16 早期英語教育導入の PDCA サイクル

PLAN	教育部	全国の小学校に教育活動と科学研究を指導
DO	各地域	モデル地区・学校・学級を定め実験授業を実施
CHECK	各地域	研究部門が実験結果を総括
ACTION	教育部	先進事例を広めて新たな英語教育を推進

第 2 項 教員不足について

教育部は早期英語教育の導入以降、当時問題であった英語教員の不足解消と質の向上に注力した。小学校の英語教員数は実験的導入後の 2003 年から 2017 年の間にほぼ 3 倍となった。早期英語教育導入時、教育部は次図のように 4 つの対応策でこの問題を乗り越えたことがわかった。

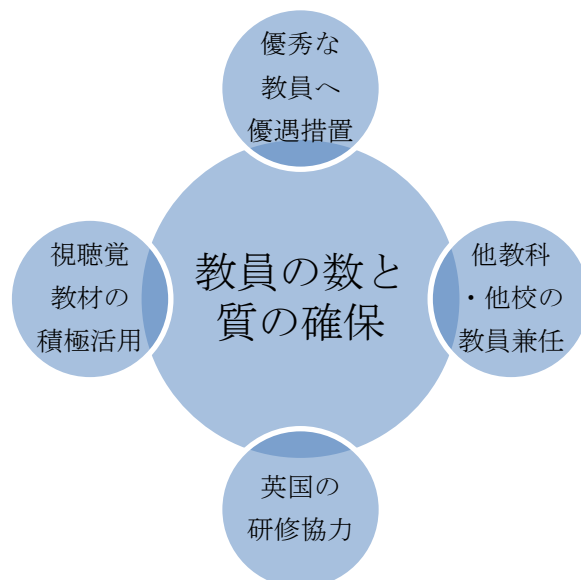


図 23 教員の数と質の確保のための 4 つの対応策

まず教育部は教育現場に対して「地域の実情に応じて、教員の配置、授業数、任用、給与待遇は合理的な規定を作成する」としながらも、「優秀な英語教員を集めるために、各地域は現場の状況に基づき、適切な奨励政策を採用してもよい」と指導したことがわかった。教育部は給与や年金などの待遇を優遇する「奨励政策」で、優秀な教員採用を推進した。現地調査では北京大学付属小学校では優遇策は特段無く、上海の公立小学校では賞与のインセンティブがあったことがわかった。

次に早期英語教育導入当初は採用だけでは不足する教員の補充が追いつかなかったため、校内で他の教科を担当している教員に兼務させたほか、他校の英語教員に学校の垣根を越えて授業を兼任させた。

3 つめには教員の質を確保し向上させるため、従来の教員研修のほかに国として初めて教員の海外派遣を行った。現地調査では、夏冬休みを活用した英国の大学での研修や、英語教員が児童を引率し英語圏の国々に行って国際交流を行う取り組みがあったことがわかった。このように教育部は教員育成について自前主義から脱し、英語圏の国々の協力を得ていたことがわかった。

4 つめとして、教員の数と質が十分でない地域に対しては、英語のテレビ番組やビデオ、CD など視聴覚教材の積極的な活用を指導した。国として ALT を招聘しなかったのは、教員に視聴覚教材を使わせる以外に、ALT を全国に配置するのは物理的に難しく、教材であれば全国配置が可能であるとの実務的な判断があったからだと考えられる。現地調査では、視聴覚教材は義務化と同時に行きわたったのではなく、段階的に普及したことが示唆された。

小学校の英語教員の数と質の確保は、2020 年度に導入する日本においても同様の課題である。日本では視聴覚教材の活用は外国語学習においてすでに多くの学校で行われているが、今後優秀な英語教員を採用するために待遇条件に差をつけ、私学を含む他校との人材交流を推進し、英国や米国など英語圏の国々から教員育成の協力を得ることも国として検討する余地がある。

第3項 英語能力について

1) TOEFL、IELTS スコアから見る英語能力

早稲田のアンケートでは準備期に学習した学生は、他の世代に比べ TOEIC のスコアが高かった。一方で次図のとおり TOEFL、IELTS は本格的導入期の学生が一番高い結果であった。これは中国の学生が国際的に通用する試験を選んで受験している結果を反映しているのかもしれない。中国国内の大学生・大学院生のアンケートでは、IELTS において若年者になるほどスコアが高い結果であった。松宮（2014）は中国での小学校英語教育は、英語運用能力や言語スキルについて教育成果が如実に表れていたと述べている。早稲田の TOEFL、IELTS のスコアで見ると、若年者になるにつれ英語能力が向上していると考えられる。



図 24 TOEFL と IELTS の早稲田留学生の平均最高スコア推移

2) 母国語への影響

中国でも導入時、日本の現在と同様に「母国語の習得の妨げになる」との批判があったが、

教育部は大都市で行われた実験の結果を研究し、E Uなどの調査結果をもとに、就学前教育に標準中国語の基礎固めを行えば導入可能と判断したことがわかった。現地調査では母国語の習得を阻害するとの批判は見当たらなかった。王(2015)によれば、日本の大学入試センター試験にあたる「高考」では「国語」の割合が大きくなっている。これは中国がグローバル人材育成のために英語教育だけでなく、国語教育も重視していることのあらわれであると考えられる。また、母国語の習得には家庭での教育環境も重要であると考えられる。王(2015)は中国では「国学」という言葉がよく言われ、子どもの時から「三字経」や「弟子規」「唐詩」を勉強させる親が多くなっていると述べている。留学生のアンケートは中国語で実施したが、回答へのクレームが無かったことをふまえても、母国語習得に大きな問題は生じないのではないかと考えられた。

一方中国では少数民族地域で二言語併用教育政策が行われており、漢語と少数民族言語による教育が実施されてきた。新保(2011)はこれに小学校から英語が導入され三言語教育が行われつつあり、こうした地域では少数民族言語以外の漢語の学習に加えて、英語が負担になっていると考えることができると述べている。こうした地域を除くと中国で早期英語教育により母国語習得に問題が生じたとの先行研究はこれまでのところ見当たらないが、早期英語教育が母国語学習に与える影響については今後も留意が必要である。

第2節 アンケートからみるスポーツとの関連

1) スポーツ情報収集と英語活用

アンケートでは、スポーツの情報収集に活用する言語について、本格的導入期に学習した学生は他の世代に比べて英語を中国語と併用するとの回答が多かった。これは若年者になるほど、スポーツの情報を入手するために、英語を活用することに抵抗感が少ない可能性を示唆した。

英語を活用してスポーツの情報収集をする学生は、外国のスポーツに対して好意性が高いことが示唆された。

2) 英語教科書とスポーツ

中国の英語教科書は実用的で身近な単語や慣用句が使われ、スポーツに関しては小学校4年生の教科書に、バスケットボールや卓球が見受けられた。一方、日本の小学校3年生の外国語活動の教材「Let's Try!」では、baseball、dodgeball、soccer、basketball、swimming、table tennis、volleyballがあった。日本も中国も児童が英語に慣れ親しむために、身の回りの物を題材として取り上げる工夫をしていたが、今後英語教科書の題材にスポーツを活用した場合、スポーツを好きな児童は英語への抵抗感が少なくなり、英語の好きな児童はスポーツへの興味・関心が増すのではないかと考えられる。

第3節 今後の中国の早期英語教育について

2020 年以降の中国の早期英語教育におけるオンライン教育と留学について考察する。

1) オンライン教育

アンケートと現地調査では、英語学習開始の低年齢化が進んでいることがわかった。

「2017 China Online Children's Education White Paper」によると、オンラインで英語学習する児童の平均年齢は約 6 歳であった。今後オンライン学習がさらに普及するとより低年齢化する可能性が示唆された。

2) 海外留学

中国では 2001 年の早期英語教育導入以降、海外への留学生が急激に増え、2017 年には 60 万人を超えた。

中国人留学生数

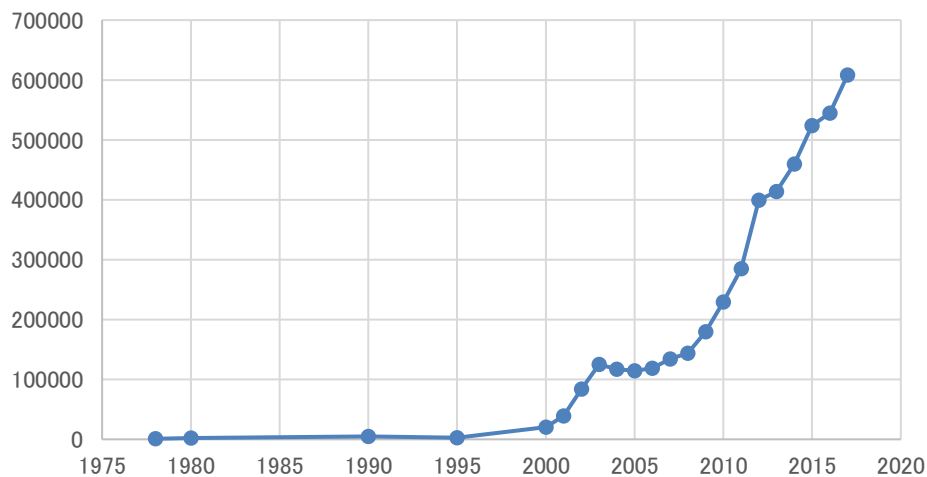


図 25 中国人留学生数の推移

新保（2011）は、国策として英語によって国際化を図ろうとしている中国において、英語は海外に飛躍するチャンスを与えるものであると述べている。現地調査では北京・上海など大都市の多くの家庭で子どもの留学を教育の前提としている実情が垣間見られた。今後の研究では、早期英語教育が 18 歳を超えた学生らの海外留学に対する動機付けに、どのような影響があったのか明らかにすることが期待される。

3) 教育格差

中国は教育分野でグローバル社会に対応するため、早期英語教育の全国普及を遂げた。しかし新保（2011）は、中国の英語教育は富裕層を優遇し、民族間や地域間の格差を固定化して差別と不平等を再生産していると述べている。本研究では中国政府が地域に対して画一的な教育を押し付けず、実情に合わせた教育の自由裁量を与えていることがわかった。早期英語教育の普及を段階的に取り組む一方で、教育格差を助長する可能性があることは中国にとって今後の課題であろう。

第4節 研究の限界

本研究で行われたアンケートは、早稲田大学・大学院に在学する中国人留学生や中国国内の一部大学生・大学院生などを対象としたものであり、現地でヒヤリング調査を行った教員らもすべての中国人教員の意見を反映したものではない。今回の早稲田留学生の調査は、日本の一大学に通い協力が得られた学生からの回答で、中国国内の大学生・大学院生も同様であり、データの取り扱いには注意が必要である。

第5章 結論

中国は早期英語教育を当初は実験的に導入し、地域の実情を踏まえながら段階的に拡大し、英国など海外の協力も得ながら教員の質と数の確保・向上を行った。2001 年以降の英語教育を受けた児童は、一定レベルの英語能力を持ち、抵抗なく英語を用い、スポーツにおいても中国語だけでなく英語でも情報を得るなど日常に用いていた。

第6章 謝辞

本稿を執筆するにあたり、多くの皆様にお力添えを頂きました。皆様へ深く御礼申し上げます。

担当指導教員である平田竹男先生には、多大なるご指導とご支援を賜りました。時に厳しくそして私の将来を常に案じてくださり、様々な角度からご助言を頂きました。本稿も平田先生のご指導が無かったら、完成させることはできなかったと思います。また、本稿の執筆を通じてこれまでの自分のキャリアと向き合う機会を得ることができ、新しい世界が開けました。誠に有り難うございました。

そしていつも厳しく、愛情のこもったご指導を頂きました副査の中村好男先生、きめ細やかで丁寧なご指導を頂きました児玉ゆう子先生、畔蒜洋平先生、心より感謝申し上げます。

アンケート調査にご協力頂いた平田竹男ゼミの蔡月さん、高鳴晋さん、早稲田大学中国人留学生会の馬思慧さんはじめ早稲田大学・大学院の中国人留学生の皆様、早稲田大学国際部の江正殷先生、沈さんはじめ国際部の皆様には、調査の趣旨をご理解頂き、大変お忙しい中ご協力頂いたことに深く感謝申し上げます。

現地でのヒヤリング調査にご協力頂いた李海娃さん、崔隽さん、樋口亜紀さん、亜美さん、高畑龍一さん、道村弥生さんをはじめ皆様にはご協力に感謝申し上げます。

ゼミに入るきっかけを頂いた品川女子学院の漆紫穂子理事長、苦しいときも楽しいときも共にした14期社会人修士の同期の皆様、また修士2年制の皆様には、本稿の執筆だけで無く様々な場面で励まして頂きました。

最後に私が大学院に通うことにご理解、ご協力を頂いた職場の皆様や友人たち、そして常に支えてくれた妻と3人の子どもたちに深く感謝しております。

皆様とのご縁に心から感謝し、本研究科で得た経験を社会に役立てるよう今後も精進して参ります。誠に有り難うございました。

第7章 参考文献

- Delloitte. (2019). Trends in the Chinese Education Industry. 参照日: 2019 年 12 月 19 日, 参照先: <https://www2.deloitte.com/cn/en/pages/international-business-support/articles/trends-in-the-chinese-education-industry.html>
- diyifanwen. (日付不明). PETS 開発. 参照日: 2019 年 12 月 21 日, 参照先: https://m.diyifanwen.com/kaoshizhuanti/PETSKaoshijieshao/0761615551966939_530.htm
- Education First. (2019). EF English Proficiency Index 2018.
- Science Portal China. (2019). 中国教育統計年鑑各年版 Index. 東京: Science Portal China. 参照日: 19 年 11 月, 参照先: https://spc.jst.go.jp/statistics/edustats_index.html
- Science Portal China. (2019). 中国統計年鑑各年版. 東京: Science Portal China. 参照日: 2019 年 12 月, 参照先: https://spc.jst.go.jp/statistics/stats_index.html
- 王明潔. (2015). 日本と中国における英語教育の特色と動向. 教育科学論集 18, 37-41.
- 外務省. (2020 年 1 月 6 日). 要人来日日程 (平成 12 年). 参照先: 朱鎔基國務院總理略歴: https://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_00/c_shu_r.html
- 斎藤孝、鳥飼玖美子. (2019). 対談黒船以来の英語コンプレックスを克服する授業はこれだ! 中央公論, 26-37.
- 松宮新吾. (2014). 日本・中国・韓国における小学校英語教育の国際比較研究: 日本型小学校英語教育の創設へ向けての提言. 研究論集 100 巻, 299-319.
- 新保敦子. (2011 年 3 月). 現代中国における英語教育と教育格差—少数民族地域における小学校英語の必修化をめぐって—. 早稲田大学大学院教育学研究科紀要第 21 号, 39-54.
- 新保敦子. (2013). 現代中国における英語教育—小学校英語教育の現場から—. Science Portal China.
- 泉恵美子. (2005). 中国の外国語教育. 語学教育部ジャーナル, 4-11.
- 早稲田大学. (2019). 早稲田大学留学センター統計データ. 参照日: 2019 年 12 月, 参照先: <https://www.waseda.jp/inst/cie/center/data>
- 太田かおり. (2013 年 3 月). 中国における教育政策の動向. 社会文化研究所紀要, 1-30.
- 中国教育新闻网. (2006). 教育部关于积极推进小学开设英语课程的指导意见. 中国: 中国教育新闻网. 参照日: 2019 年 12 月 18 日, 参照先: http://www.jyb.cn/info/jyzck/200603/t20060319_13131.html
- 中国教育部. (2019). 中華人民共和國教育部. 中国: 中国教育部. 参照日: 2019, 参照先: <http://www.moe.gov.cn/>
- 中国政府. (1999). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2000). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2001). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2003). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.

- 中国政府. (2004). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2005). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2006). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2007). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中国政府. (2008). 中国教育統計年鑑. 中国: 中国政府.
- 中室牧子. (2015). 学力の経済学. 東京: ディスカヴァー・トゥエンティワン.
- 長沼君主、吉田研作. (2010). 東アジア高校英語教育調査から見た日韓中高校生における英語 Can-Do 自己評価スコア比較. ARCLE REVIEW No.4 (研究紀要第 4 号), 6-24.
- 鳥飼玖美子. (2018). 英語教育の危機. 東京: ちくま新書.
- 藤原正彦. (2019). 国家の品格. 東京: 新潮社.
- 藤雪麗、福田隆眞. (2010). 小学校における中国の課程標準と日本の学習指導要領の比較研究. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第 30 号, 57-65.
- 樋口忠彦. (2005). 諸外国の言語教育政策と日本の外国語教育への示唆. 語学教育部ジャーナル, 4-11.
- 文部科学省. (2002). 諸外国の初等中等教育. 東京: 財務省印刷局.
- 文部科学省. (2005). 中国における小学校教育の現状と課題.
- 文部科学省. (2008). 中国における小学校英語教育の現状と課題 (参考資料 4-2 暫定版). 中教審初等中等教育分科会教育課程部会外国語専門部会第 9 回 (ページ: 1-39). 東京: 文部科学省. 参照日: 2019 年 7 月 31 日, 参照先:
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/attach/_icsFiles/afieldfile/2018/01/23/1400663_001.pdf
- 文部科学省. (2018). 諸外国の教育動向 2017 (第 初版 版). 東京: 明石書店.
- 文部科学省. (2018). 諸外国の初等中等教育 (第 初版第 2 刷 版, 第 教育調査第 150 集 巻). 東京: 明石書店.
- 文部科学省. (2019). 諸外国の教育動向 2018 (第 初版 版). 東京: 明石書店.
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室. (日付不明). 諸外国における小学校段階の英語教育の状況. 中教審初等中等教育分科会教育課程部会第 39 回.
- 平田竹男. (2018). スポーツビジネス 最強の教科書[第 2 版]. 東洋経済新報社.
- 柳善和、高橋美由紀. (2016). 中国杭州市における小学校及び中学校の英語教育. 中部地区英語教育学会紀要 45 巻, 265-272.
- 陸君. (2014). 日本と中国における小学校英語教育の現状と課題. 人間学研究.
- 決勝网. (2018). 2017 China Online Children's English White Paper. 参照日: 2019 年 11 月 6 日, 参照先:
http://www.sohu.com/a/225927639_99950984?fbclid=IwAR1xDQReBgO0PkG4Wxot3QItjivfpjkB9zWQbtqm6dYMA5NYeAdrbltTf5o

参考資料

資料1 早稲田大学留学生対象の「アンケート調査」原本

2019年11月吉日

英語・スポーツに関するアンケート調査ご協力をお願い
请协助我们的英语・体育相关的问卷调查

早稲田大学・大学院に通う中国人留学生の皆様

早稲田大学・大学院的中国留学生

はじめまして。

您好。

私は早稲田大学スポーツ科学学術院の社会人修士1年生、平田竹男研究室の鈴木款と申します。

我是早稲田大学运动科学研究科平田竹男研究室一年级社会人修士鈴木款。

さてこの度、私の修士論文の研究として、中国の子どもたちの英語学習の環境を調査するため、早稲田大学・大学院に通う中国人留学生の皆様を対象に、アンケートを実施する運びとなりました。

我本次论文研究的内容是关于中国孩子的英语学习环境。所以将对早稲田大学大学院的中国留学生进行问卷调查。

この研究は、英語教育の先進国である中国の教育事情を調べることで、英語教育の理想的な姿を明らかにすることを目的としています。

本次研究的目的，是通过开展良好的中国的早期英语教育的现状的调查，明确理想的英语教育形式。

つきましては大変お忙しい中恐縮ですが、以下のアンケートにお答え頂ければ幸いです。

百忙之中抽出宝贵时间回答问卷，我们不胜感激。

アンケートの回答は統計的に処理されますので、特定の個人を識別できる情報として公表されることは一切ございません。

问卷回答的结果将以统计的形式进行处理，个人信息都不会公开，敬请放心。

何卒ご協力賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

【属性】

あなたの年齢を教えてください。

您的年龄是？

あなたの性別を教えてください。

您的性别是

1. 男
2. 女

3. そのほか 其他

早稲田大学・大学院入学前の最終学歴を教えてください。

早大入学前の学历是

1. 中国の高校卒（中国高中毕业）
2. 日本の高校卒（日本高中毕业）
3. 日本・中国以外の国の高校卒（中国日本以外的高中毕业）
4. 中国の大学卒（中国大学毕业）
5. 日本の大学卒（日本大学毕业）
6. 日本・中国以外の国の大学卒（中国日本以外的大学生毕业）
7. 中国の大学院卒（中国硕士毕业）
8. 日本の大学院卒（日本硕士毕业）
9. 日本・中国以外の国の大学院卒（中国日本以外的大学生毕业）
10. そのほか（其他）

あなたが留学前、中国で住んでいた場所はどちらですか？（任意です）

您留学前在中国的居住地是

1. 北京
2. 上海
3. 広州
4. 深圳
5. 香港
6. 1～5 以外（できれば地名をお書きください）（1～5 以外の地区，请填写您的居住地）
7. 答えたくない（不想回答）

あなたのお父様の職業を教えてください。（任意です）

您父亲的职业是

1. 公務員（公务员）
2. 専門職（医師・弁護士・教師など）（技术职位（医生/律师/教师等））
3. 管理職（会社経営者など）（公司经营）
4. 事務職（一般公司的职员）
5. 営業・販売職（销售工作）
6. サービス職（服务业）
7. 農林漁業（农业）
8. そのほか（其他）
9. 専業主夫（家庭主夫）
10. わからない・知らない（不知道）
11. 答えたくない（不想回答）

あなたのお母様の職業を教えてください。（任意です）

您母亲的职业是

1. 公務員（公务员）
2. 専門職（医師・弁護士・教師など）（技术职位（医生/律师/教师等））
3. 管理職（会社経営者など）（公司经营）
4. 事務職（一般公司的职员）
5. 営業・販売職（销售工作）
6. サービス職（服务业）
7. 農林漁業（农业）
8. そのほか（其他）
9. 専業主婦（家庭主婦）
10. わからない・知らない（不知道）
11. 答えたくない（不想回答）

あなたのご両親は英語が話すことができますか？（任意です）

您的父母会说英语吗

1. 両親どちらかが話せる（有一方会说）
2. 両親とも話せる（父母都会说）
3. 両親とも話せない（父母都不会说）
4. わからない・知らない（不知道不清楚）
5. 答えたくない（不想回答）

あなたのご家庭の月収を教えてください。（任意です）

您的家庭月收入是

1. 1,000 元くらい（1000 左右）
2. 5,000 元くらい（5000 左右）
3. 1 万元くらい（1 万左右）
4. 5 万元くらい（5 万左右）
5. 10 万元以上（10 万以上）
6. わからない・知らない（不知道）
7. 答えたくない（不想回答）

【学習環境】

あなたは英語を何歳から学び始めましたか？

您是从几岁开始学习英语的

1. 0～3 歳（0～3 岁）
2. 4～5 歳（幼稚園）（4～5 岁）
3. 6～7 歳（小1年生～2年生）（6～7 岁）
4. 8 歳以上（小3年生以上）（8 岁以上）

最初に英語を学んだのはどちらですか？

您最早是在哪里学习的英语

1. 学習塾（补习班）
2. オンライン（网络课程）
3. 家庭教師（家教）
4. 幼稚園（幼儿园）
5. 小学校（小学）
6. そのほか（できればお書きください）（其他，请回答）

あなたが12歳までに英語を学んだ場所をすべて教えてください。

您12岁之前在哪里接受的英语教育

1. 学習塾（补习班）
2. オンライン（网络课程）
3. 家庭教師（家教）
4. 幼稚園（幼儿园）
5. 小学校（小学）
6. そのほか（其他，请回答）

これまで英語学習に一番役に立ったと思うのはどちらですか？

您觉得对英语学习最有帮助的是

1. 学習塾（补习班）
2. オンライン（网络课程）
3. 家庭教師（家教）
4. 幼稚園（幼儿园）
5. 小学校（小学）
6. 初級中学（初中）
7. 高級中学（高校）（高中）
8. そのほか（其他）
9. わからない（不知道）

小学校の英語の先生は、授業を英語で行いましたか？

小学的英语老师是使用英文授课吗

1. 英語のみ（只用英语）
2. 英語と中国語（英语和中文）
3. 中国語のみ（只用中文）
4. わからない・覚えていない（不清楚）

学習塾で学んだことがあると答えた方に（如果参加过补习班请作答）

学習塾に通い始めたのは何歳ですか？

您是从几岁开始参加补习班的

1. 0～3 歳
2. 4～5 歳
2. 6～7 歳（小 1 年生～ 2 年生）
3. 8～9 歳（小 3 年生～ 4 年生）
4. 10 歳～11 歳（小 5 年生～ 6 年生）
5. 12 歳以上（中学 1 年生以上）

学習塾を何歳まで続けましたか？

您在补习班学习到几岁

1. 0～3 歳
2. 4～5 歳
2. 6～7 歳（小 1 年生～ 2 年生）
3. 8～9 歳（小 3 年生～ 4 年生）
4. 10 歳～11 歳（小 5 年生～ 6 年生）
5. 12 歳以上（中学 1 年生以上）

通った学習塾の名前を教えてください。

您参加的补习班的名字是

月謝はいくらでしたか？もしわかれば教えてください。

每个月的学费大约是

1. 一ヶ月 元（毎月___元）
2. わからない・覚えていない（不清楚）

オンラインで学んだことがあると答えた方に（如果参加过网络课程的请回答）

オンラインを始めたのは何歳ですか？

您是几岁开始参加网络课程的学习的

1. 0～3 歳
2. 4～5 歳
3. 6～7 歳（小 1 年生～ 2 年生）
4. 8～9 歳（小 3 年生～ 4 年生）
5. 10 歳～11 歳（小 5 年生～ 6 年生）
6. 12 歳以上（中学 1 年生以上）

オンラインを何歳まで続けましたか？

一直学习到几岁

1. 0～3 歳
2. 4～5 歳
3. 6～7 歳（小 1 年生～ 2 年生）
4. 8～9 歳（小 3 年生～ 4 年生）
5. 10 歳～11 歳（小 5 年生～ 6 年生）
6. 12 歳以上（中学 1 年生以上）

使ったオンライン学習の名前を教えてください。

参加过的网络课程的名字是？

月謝はいくらでしたか？もしわかれば教えてください。

网络课程的学费大约是

1. 一ヶ月 元（毎月___元）
2. わからない・覚えていない（不清楚）

【試験】

これまで受験したことのある試験をすべて選んでください。

请选择至今参加过的英语考试

1. TOEFL（托福）
2. TOEIC（托业）
3. YLE
4. IELTS（雅思）
5. 英検（英语检定）
6. そのほか（其他）
7. 受けたことがない（没有参加过）

これまで何回受験したことがありますか？

至今为止参加过多少次英语考试

1. TOEFL 回 (托福__次)
2. TOEIC 回 (托业__次)
3. YLE 回 (YLE__次)
4. IELTS 回 (雅思__次)
5. 英検 回(英语检定__次)
6. そのほか 回 (其他考试__次)
7. わからない・覚えていない (不清楚)
8. 受けたことがない (没有参加过)

受験料はいくらでしたか？受験したものをすべて教えてください。

报名费大约是多少

1. TOEFL 1回 元 円 (托福每次)
2. TOEIC 1回 元 円 (托业每次)
3. YLE 1回 元 円 (YLE 每次)
4. IELTS 1回 元 円 (雅思每次)
5. 英検 1回 元 円 (英语检定每次)
6. そのほか 1回 元 円 (其他每次)
7. わからない・覚えていない (不清楚)

最近二年間で受験した試験の最高得点を教えてください。(任意です)

最近两年参加过的英语考试的最高得分是

1. TOEFL 点
2. TOEIC 点
3. YLE 点
4. IELTS 点
5. 英検 点
6. わからない・覚えていない (不清楚)

中国の大学を卒業した方に（中国大学毕业的同学请回答）

大学入試であなたが受けた英語の試験は、次のどの内容でしたか？教えてください。

高考英语考试包含以下哪些内容

1. ライティングのみ（只有写作）
2. ライティングとヒヤリング（写作和听力）
3. ライティングとヒヤリングとスピーキング（写作听力以及口语）
4. そのほか（できれば内容をお書きください）（其他（请写出考试形式））
5. 受けていない（没有参加英语考试）
6. 覚えていない・わからない（不清楚）

【英語に対する意識】

【中国にいたとき、いつ英語を使いましたか？あてはまるものをすべて選んでください。

在中国时什么情况下会用到英语

1. 学校の授業（学校上课）
2. 本やネット記事を読む（读英文书或者浏览英语网站）
3. 音楽や映画の鑑賞（听英文歌或者看英语电影）
4. 知人や友人との会話（和朋友交谈）
5. 家庭内（和家人在一起时）
6. わからない（不清楚）

あなたは英語が好きですか？

您喜欢英语吗

1. とても好き（非常喜欢）
2. どちらかというと好き（比较喜欢）
3. どちらかというときらい（不太喜欢）
4. とても嫌い（非常讨厌）
5. どちらともいえない（没什么感觉）

あなたが英語を勉強するのはなぜですか？あてはまるものをすべて選んでください。

您学习英语的目的是

1. 学校でいい成績を取りたいため（为了在学校取得好成绩）
2. 海外留学するため（为了留学）
3. 英語は仕事で必要だから（以后工作会用到）
4. 将来グローバル人材になれるから（为了成为国际化的人才）
5. 将来中国国外で働きたいから（将来想在国外工作）
6. 将来中国国外で暮らしたいから（将来想在国外生活）
7. そのほか（其他）
8. わからない（不清楚）

あなたは自分の英語能力をどのレベルだと思いますか？

您的英语水平是

1. ネイティブ並み（母语级别）
2. 日常生活レベル（日常会话）
3. ほとんどできない（基本不会说）
4. わからない（不清楚）

あなたは「中国人は日本人より英語能力が高い」と思いますか？

您觉得中国人英语能力比日本人高吗

1. 中国人のほうが高い（中国人的英语能力比较高）
2. 日本人のほうが高い（日本人的英语能力比较高）
3. どちらともいえない（不好说）

【英語とスポーツへの関心】

あなたは英語を学ぶことで、スポーツへの興味・関心が増したと思いますか？

通过英语学习您对体育运动的兴趣增加了吗

1. 増した（增加了）
2. 増したとは思わない（并没有）
3. 興味・関心が無い（对体育运动没有兴趣）
4. わからない（不清楚）

あなたが好きなスポーツは何ですか？あてはまるものをすべて選んでください。

您喜欢什么运动（多选）

1. バスケットボール（篮球）
2. サッカー（足球）
3. 卓球（乒乓球）
4. バレーボール（排球）
5. テニス（网球）
6. 体操
7. バドミントン（羽毛球）
8. 水泳（游泳）
9. 野球（棒球）
10. そのほか（其他）
11. 特にない（并没有喜欢的运动）

好きと答えたスポーツの番組を、あなたはいつ頃から観始めましたか？

您从几岁开始观看喜欢的体育节目

1. 0～5 歳
2. 小学生から（小学开始）
3. 初級中学生から（初中开始）
4. 高級中学生（高校生）から（高中开始）
5. 大学生から（大学开始）
6. わからない（不清楚）

あなたは好きな外国のスポーツ・リーグやチーム、選手はいますか？

您有喜欢的外国联赛，球队或者选手吗

1. いる（有）
2. いない（没有）
3. わからない・知らない（不清楚）

いると答えた方に（回答[有]的同学请回答

好きなリーグやチーム名、選手名を教えてください。（複数回答可能です）

请写出喜欢的联赛，球队，选手的名字（可回答多个）

あなたはスポーツ番組をテレビとインターネットのどちらで観ていますか？

您一般是通过网络还是电视观看体育赛事

1. テレビ（电视）
2. インターネット（网络）
3. 両方（都是用）
4. 観ない（不观看体育赛事）

あなたはスポーツのニュースや情報を、英語と中国語のどちらを使って入手しますか？

您一般是看英语还是中文的体育新闻

1. 英語だけ（只看英语的）
2. 中国語だけ（只看中文的）
3. 英語・中国語の両方使う（中文英语两者都使用）
4. 他の言語で（其他语言）
5. わからない（不清楚）

あなたは将来英語を使ってスポーツビジネスをしてみたいと思いますか？

将来您希望使用英语从事一些运动商业相关的工作吗？

1. してみたい（想要尝试）
2. してみたいと思わない（没有想过要尝试）
3. わからない（不清楚）

あなたのご両親はスポーツに関心がありますか？

您的父母对体育运动有兴趣吗

1. 両親どちらかがある（一方都有兴趣）
2. 両親ともある（双方都有兴趣）
3. 両親ともない（双方都没有兴趣）
4. わからない・知らない（不清楚）

アンケートは以上です。

大変お忙しい中アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

百忙之中抽出时间回答我们的问卷调查，非常感谢。

頂きました貴重な情報は、研究に十分に活用させていただきますのと同時に、個人情報の保護に基づき研究以外の目的には使用致しません。

重要的个人情报等基于情报保护等原则不会用于研究以外的用途。敬请放心，我们将严格保护您的个人信息。

なお、もし可能でしたら、周りでアンケートにご協力頂ける留学生の方にも、お願いして頂けると大変助かります。

如果可以将问卷扩散给你周围的中国留学生的话，我们将非常感谢你的支持。

どうぞ宜しくお願い致します。

早稲田大学スポーツ科学学術院 社会人修士1年生 鈴木 款

英語・スポーツに関するアンケート調査ご協力をお願い
请协助我们的英语・体育相关的问卷调查

はじめまして。

您好。

私は早稲田大学スポーツ科学学術院の社会人修士1年生、平田竹男研究室の鈴木款と申します。

我是早稻田大学运动科学研究科平田竹男研究室一年级社会人修士鈴木款。

さてこの度、私の修士論文の研究として、中国の子どもたちの英語学習の環境を調査するため、中国の学生にアンケートを実施する運びとなりました。

我本次论文研究的内容是关于中国孩子的英语学习环境。所以将对中国籍学生进行问卷调查。

この研究は、英語教育の先進国である中国の教育事情を調べることで、英語教育の理想的な姿を明らかにすることを目的としています。

本次研究的目的，是通过对英语教育开展良好的中国的早期英语教育的现状的调查，明确理想的英语教育形式。

つきましては大変お忙しい中恐縮ですが、以下のアンケートにお答え頂ければ幸いです。

百忙之中抽出宝贵时间回答问卷，我们不胜感激。

アンケートの回答は統計的に処理されますので、特定の個人を識別できる情報として公表されることは一切ございません。

问卷回答的结果将以统计的形式进行处理，个人信息都不会公开，敬请放心。

何卒ご協力賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

あなたの年齢を教えてください。

您的年龄是？

あなたの性別を教えてください。

您的性别是

4. 男

5. 女

6. その他 其他

あなたのお父様の職業を教えてください。（任意です）

您父亲的职业是

10. 公務員（公务员）

11. 専門職（医師・弁護士・教師など）（技術職位（医生/律师/教师等））
12. 管理職（会社経営者など）（公司经营）
13. 事務職（一般公司的职员）
14. 営業・販売職（销售工作）
15. サービス職（服务业）
16. 農林漁業（农业）
17. そのほか（其他）
18. 専業主夫（家庭主夫）
12. わからない・知らない（不知道）
13. 答えたくない（不想回答）

あなたのお母様の職業を教えてください。（任意です）

您母亲的职业是

10. 公務員（公务员）
11. 専門職（医師・弁護士・教師など）（技術職位（医生/律师/教师等））
12. 管理職（会社経営者など）（公司经营）
13. 事務職（一般公司的职员）
14. 営業・販売職（销售工作）
15. サービス職（服务业）
16. 農林漁業（农业）
17. そのほか（其他）
18. 専業主婦（家庭主妇）
12. わからない・知らない（不知道）
13. 答えたくない（不想回答）

あなたのご両親は英語が話すことができますか？（任意です）

您的父母会说英语吗

6. 両親どちらかが話せる（有一方会说）
7. 両親とも話せる（父母都会说）
8. 両親とも話せない（父母都不会说）
9. わからない・知らない（不知道不清楚）
10. 答えたくない（不想回答）

あなたのご家庭の月収を教えてください。（任意です）

您的家庭月收入是

1. 1,000 元くらい（1000 左右）
2. 5,000 元くらい（5000 左右）
3. 1 万元くらい（1 万左右）

4. 5 万元くらい (5 万左右)
5. 10 万元以上 (10 万以上)
6. わからない・知らない (不知道)
7. 答えたくない (不想回答)

あなたは英語を何歳から学び始めましたか？

您是从几岁开始学习英语的

1. 0～3 歳 (0～3 岁)
2. 4～5 歳 (幼稚園) (4～5 岁)
3. 6～7 歳 (小 1 年生～2 年生) (6～7 岁)
4. 8 歳以上 (小 3 年生以上) (8 岁以上)

最初に英語を学んだのはどちらですか？

您最早是在哪里学习的英语

6. 学習塾 (补习班)
7. オンライン (网络课程)
8. 家庭教師 (家教)
9. 幼稚園 (幼儿园)
10. 小学校 (小学)
6. そのほか (できればお書きください) (其他, 请回答)

あなたが 12 歳までに英語を学んだ場所をすべて教えてください。

您 12 岁之前在哪里接受的英语教育

7. 学習塾 (补习班)
8. オンライン (网络课程)
9. 家庭教師 (家教)
10. 幼稚園 (幼儿园)
11. 小学校 (小学)
12. そのほか (其他, 请回答)

これまで英語学習に一番役に立ったと思うのはどちらですか？

您觉得对英语学习最有帮助的是

8. 学習塾 (补习班)
9. オンライン (网络课程)
10. 家庭教師 (家教)
11. 幼稚園 (幼儿园)
12. 小学校 (小学)
13. 初級中学 (初中)

14. その他（其他）

8. わからない（不知道）

小学校の英語の先生は、授業を英語で行いましたか？

小学英语老师是使用英文授课吗

4. 英語のみ（只用英语）

5. 英語と中国語（英语和中文）

6. 中国語のみ（只用中文）

4. わからない・覚えていない（不清楚）

学習塾で学んだことがあると答えた方に（如果参加过补习班请作答）

学習塾に通い始めたのは何歳ですか？

您是从几岁开始参加补习班的

1. 0～3 歳

2. 4～5 歳

2. 6～7 歳（小1年生～2年生）

3. 8～9 歳（小3年生～4年生）

4. 10 歳～11 歳（小5年生～6年生）

5. 12 歳以上（中学1年生以上）

オンラインで学んだことがあると答えた方に（如果参加过网络课程的请回答）

オンラインを始めたのは何歳ですか？

您是几岁开始参加网络课程的学习的

1. 0～3 歳
2. 4～5 歳
3. 6～7 歳（小 1 年生～ 2 年生）
4. 8～9 歳（小 3 年生～ 4 年生）
5. 10 歳～11 歳（小 5 年生～ 6 年生）
6. 12 歳以上（中学 1 年生以上）

これまで受験したことのある試験をすべて選んでください。

请选择至今参加过的英语考试

1. TOEFL（托福）
2. TOEIC（托业）
3. YLE
4. IELTS（雅思）
5. PETS
6. そのほか（其他）
7. 受けたことがない（没有参加过）

これまで何回受験したことがありますか？

至今为止参加过多少次英语考试

1. TOEFL 回（托福__次）
2. TOEIC 回（托业__次）
3. YLE 回（YLE__次）
4. IELTS 回（雅思__次）
5. PETS 回(PETS__次)
6. そのほか 回（其他考试__次）
7. わからない・覚えていない（不清楚）
8. 受けたことがない（没有参加过）

最近二年間で受験した試験の最高得点を教えてください。（任意です）

最近两年参加过的英语考试的最高得分是

1. TOEFL 点
2. TOEIC 点
3. YLE 点
4. IELTS 点
5. 英検 点
6. わからない・覚えていない（不清楚）

中国でいつ英語を使いましたか？あてはまるものをすべて選んでください。

在中国时什么情况下会用到英语

7. 学校の授業（学校上课）
8. 本やネット記事を読む（读英文书或者浏览英语网站）
9. 音楽や映画の鑑賞（听英文歌或者看英语电影）
10. 知人や友人との会話（和朋友交谈）
11. 家庭内（和家人在一起时）
12. わからない（不清楚）

あなたは英語が好きですか？

您喜欢英语吗

3. とても好き（非常喜欢）
4. どちらかというと好き（比较喜欢）
3. どちらかというときらい（不太喜欢）
4. とても嫌い（非常讨厌）
5. どちらともいえない（没什么感觉）

あなたが英語を勉強するのはなぜですか？あてはまるものをすべて選んでください。

您学习英语的目的是

1. 学校でいい成績を取りたいため（为了在学校取得好成绩）
2. 海外留学するため（为了留学）
3. 英語は仕事で必要だから（以后工作会用到）
4. 将来グローバル人材になれるから（为了成为国际化的人才）
5. 将来中国国外で働きたいから（将来想在国外工作）
6. 将来中国国外で暮らしたいから（将来想在国外生活）
7. そのほか（其他）
8. わからない（不清楚）

あなたは自分の英語能力をどのレベルだと思いますか？

您的英语水平是

1. ネイティブ並み（母语级别）
2. 日常生活レベル（日常会话）
3. ほとんどできない（基本不会说）
4. わからない（不清楚）

あなたは英語を学ぶことで、スポーツへの興味・関心が増したと思いますか？

通过英语学习您对体育运动的兴趣增加了吗

5. 増した（增加了）
6. 増したとは思わない（并没有）
7. 興味・関心が無い（对体育运动没有兴趣）
8. わからない（不清楚）

あなたが好きなスポーツは何ですか？あてはまるものをすべて選んでください。

您喜欢什么运动（多选）

1. バスケットボール（篮球）
2. サッカー（足球）
3. 卓球（乒乓球）
4. バレーボール（排球）
5. テニス（网球）
6. 体操
7. バドミントン（羽毛球）
8. 水泳（游泳）
9. 野球（棒球）
10. そのほか（其他）
11. 特にない（并没有喜欢的运动）

好きと答えたスポーツの番組を、あなたはいつ頃から観始めましたか？

您从几岁开始观看喜欢的体育节目

1. 0～5 歳
2. 小学生から（小学开始）
3. 初級中学生から（初中开始）
4. わからない（不清楚）

あなたは好きな外国のスポーツ・リーグやチーム、選手はいますか？

您有喜欢的外国联赛，球队或者选手吗

4. いる（有）
5. いない（没有）
6. わからない・知らない（不清楚）

いると答えた方に（回答[有]的同学请回答

好きなリーグやチーム名、選手名を教えてください。（複数回答可能です）

请写出喜欢的联赛，球队，选手的名字（可回答多个）

あなたはスポーツのニュースや情報を、英語と中国語のどちらを使って入手しますか？

您一般是看英语还是中文的体育新闻

1. 英語だけ（只看英语的）
2. 中国語だけ（只看中文的）
3. 英語・中国語の両方使う（中文英语两者都使用）
4. 他の言語で（其他语言）
5. わからない（不清楚）

アンケートは以上です。

大変お忙しい中アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。

百忙之中抽出时间回答我们的问卷调查，非常感谢。

頂きました貴重な情報は、研究に十分に活用させていただきますのと同時に、個人情報の保護に基づき研究以外の目的には使用致しません。

重要な個人情報等基于情报保护等原则不会用于研究以外的用途。敬请放心，我们将严格保护您的个人信息。

なお、もし可能でしたら、周りでアンケートにご協力頂ける留学生の方にも、お願いして頂けると大変助かります。

如果可以将问卷扩散给你周围的中国留学生的话，我们将非常感谢你的支持。

どうぞ宜しくお願い致します。

早稲田大学スポーツ科学学術院 社会人修士1年生 鈴木 款

教育部关于积极推进小学开设英语课程的指导意见（2001年1月18日）

教基[2001]2号

为了贯彻党的十五届五中全会和第三次全国教育工作会议的精神，进一步落实"教育要面向现代化，面向世界，面向未来"的战略指导思想，教育部决定，把小学开设英语课程作为21世纪初基础教育课程改革的重要内容。现就小学开设英语课程提出如下意见。

一、积极推进小学开设英语课程

推进小学开设英语课程的基本目标是：2001年秋季始，全国城市和县城小学逐步开设英语课程；2002年秋季，乡镇所在地小学逐步开设英语课程。小学开设英语课程的起始年级一般为三年级。各省、自治区、直辖市教育行政部门可结合实际，确定本地区小学开设英语课程的工作目标和步骤。

在积极推进小学开设英语课程的工作中，要保护和支持日语和俄语等其他语种的外语教学。鼓励以其他语种作为主要外语课程的学校办出自己的特色。积极支持"双外语"等教学实验活动。

二、小学开设英语课程的基本要求

小学英语教学要依据《小学英语课程教学基本要求（试行）》，重视激发和培养学生学习英语的兴趣，培养一定的语感和良好的语音、语调基础，引导学生乐于用英语进行简单的交流。防止和纠正以教授语音和语法等语言知识为主的做法，把教学重点放在培养学生用英语进行交流的能力和兴趣上。小学英语的评价应按照课程目标的要求，以形成性评价为主。不允许将学生的考试成绩排队，并以此作为各种评比和选拔的依据。小学开设英语课程应遵循短课时、高频率的原则，学校可通过长短课结合，课内外配合，开展丰富多彩的英语教学活动。要保证每周至少四次教学活动，学校可根据具体条件，灵活安排。开设英语课程的小学，从三年级起，语文课减少一课时，其余英语教学活动时间，由地方课时中解决。

各地可根据实际情况，确定小学英语的教学方式。转变传统的课堂教学观念，充分利用远距离教学手段和英语教学音像资源，为学生创设良好的语言学习环境。教师条件较好

的城市或地区，在课堂教学中，应积极利用英语音像媒体。英语师资条件暂不具备的地区，要积极利用英语电视节目、录像带、光盘和录音带等资源，在教师的指导和组织下开展教学活动。

从 2001 年上半年开始，中国教育电视台将播放小学英语教师培训系列节目，以提高教师英语教学能力，并制作部分小学英语电视教学节目，2001 年秋季开学起定时和滚动播放，同时提供相应的音像媒体，供小学组织英语教学选用。

三、加强小学英语教材的管理

鉴于目前国内已有相当数量的小学英语教材，当前，解决小学英语教材的需求主要是按照《小学英语课程教学基本要求（试行）》组织对现有教材的审查，规范管理。审查通过的教材将列入中小学教学用书目录。2002 年秋季开始，未列入中小学教学用书目录的小学英语教材将停止使用。新编小学英语教材须报我部立项核准。鼓励研制开发高质量的英语教学软件。

四、加强小学英语师资队伍的建设

加强小学英语师资队伍建设，是提高小学英语教学质量的基本条件。目前，要重点搞好小学英语骨干教师和辅导教师的培训工作，以解决小学开设英语课程的迫切需要。可开展转岗培训，对具有一定英语基础的在职小学教师，通过培训合格后，可转岗从事英语教学或兼职承担英语教学辅导工作。各级师范院校、教师进修院校、中小学教研室要在当地教育行政部门的规划和指导下对在职小学教师进行培训。

加强各级各类师范院校英语教育专业建设，努力扩大和提高师范院校培养小学师资的规模和能力。要继续办好中等外语师范学校。鼓励并支持有条件的中等师范学校举办英语专业班。中等师范学校要开设英语必修课。有条件的中等师范学校可改建为中等外语师范学校。

依据本地区实际，对小学英语教师的配备标准、教学工作量、职务聘任和工资待遇等做出合理规定。为吸引优秀小学英语教师，各地可根据实际情况，采取适当的鼓励政策。鼓励非师范院校英语专业毕业生到小学任教。

五、加强对小学开设英语课程的领导

各级教育行政部门要充分认识到推进小学开设英语课程的重要性，加强领导，制定可操作的实施方案，讲求实效，稳步推进。有条件的地区要为小学接收英语课程节目，提供必

要的条件。特别是解决有线电视的接收，配备电视机、录像机和录音机等必要的设备。其他地区要充分利用"村村通广播电视工程"和"校校通工程"。

加强小学英语课程与教学的科学研究。我部将建立全国小学英语教学指导委员会，对全国的小学英语教学工作 and 科研工作 进行指导。各级教研部门要配备专职的小学英语教研员，积极组织小学英语教师开展教学研究工作。

各地要有计划地建立若干"示范班"、"示范校"和"示范区"，开展教学改革实验，总结推广先进经验，为当地推进小学开设英语课程发挥示范作用。

資料 4 小学校 1 年生と 2 年生の教科書で使われている単語・慣用句

小 1 上	小 1 下	小2上	小2下
book	chair	father	play football
ruler	desk	mother	fly a kite
pencil	blackboard	brother	ride a bike
schoolbag	on	sister	make a model plane
teacher	under	grandmother	swim
I	in	grandfather	make a snowman
have	where	who	rainy
a/an	the	he	cloudy
face	light	she	snowy
ear	bed	classmate	windy
eye	door	friend	sunny
nose	box	woman	umbrella
mouth	near	girl	weather
this	behind	man	wow
is	plane	boy	let's
my	ball	look	spring
dog	doll	his	summer
bird	train	name	autumn
finger	car	her	winter
monkey	bear	or	hot
cat	can	big	warm
what	sure	tall	cool
it	sorry	pretty	cold
one	rice	thin	favourite
two	noodles	short	season
three	vegetable	handsome	eleven
four	fish	new	twelve
five	chicken	does	twenty
six	egg	bookshop	thirty
seven	hungry	zoo	forty
eight	want	school	fifty
nine	and	supermarket	thirteen
ten	juice	park	fourteen
how	tea	hospital	fifteen
many	milk	go	time
are	water	to	playtime
there	thirsty	grass	get up
black	thanks	tree	eat breakfast
yellow	shirt	flower	go to school
blue	T-shirt	boat	eat lunch
red	skirt	lake	go home

green	dress	hill	eat dinner
colour	socks	Christmas	go to bed
apple	shorts	Father Christmas	when
pear	your	Christmas tree	every day
banana		Card	at
orange		Present	Sunday
dog		New Year	Monday
you		Merry	Tuesday
like		Too	Wednesday
yes		Here	Thursday
no		For	Friday
		Thank	Saturday
		Happy	today

(小学校 1 年 97 単語 2 年生 108 単語および慣用句)

資料5 小学校3年生と4年生の教科書で使われている単語・慣用句

小3上	小3下	小4上	小4下
my	Chinese	running	across from
your	English	basketball	next to
name	science	roller skating	between
new	PE	jumping rope	restaurant
year	music	ping-pong	post office
old	math	what about...?	bank
how old	art	interesting	grocery
class	computer class	often	turn left
grade	we	be good at	turn right
age	that	late	go straight
dear	classroom	visit one's grandparents	crossroads
body	library	go to a drawing club	neighborhood
head	toilet	climb a hill	send
hair	playground	pick fruit	get
arm	first	play computer games	money
and	second	go fishing	get to
leg	third	go to the cinema	before
foot(feet)	floor	on the weekend	leave
the matter	room	fun	toy
hurt	our	always	city
help	they	step	street
bad	after school	paint	sports center
bite	play sports	evening	hotel
tongue	draw pictures	dirty	square
kick	play chess	their	buy toys
morning	dance	house	see a film
afternoon	sing songs	poor	go boating
summary	read books	hope	busy
bread	really	so	station
cake	tomorrow	usually	place
fruit	wake up	by bus	thing
ice-cream	be back	by boat	stay
potato	family	by sip	star
tomato	uncle	by car	king
meat	aunt	by taxi	central
for	cousin	by bike	take photos
shopping list	handsome	on foot	museum
cola	beautiful	by school bus	dream
buy	lost	by subway	sea
duck	water bottle	by plane	ski

chicken*	know	by train	eat seafood
rabbit	OK	garden	visit the Mogao Caves
pet	much	meeting place	West Lake
snake	welcome	gate	row a boat
turtle	cooking dinner	transportation	the Great Wall
small	walking with dog	film	take photos
long	watering the plants	earth	summer vacation
look for	cleaning the room	snow	travel
tail	listening to music	theatre	reading
dance	watching TV	come	skateboarding
cap	feeding the fish	enjoy	singing
coat	play with	pen	dancing
shoes	in one hour	knife	doing jigsaw puzzles
sweater	everyone	eraser	making models
jacket	children	crayon	collecting erasers
gloves	run	scissors	different
trousers	home	glue stick	hobby
should	bedroom	paper	stamp
wear	living room	use	catch
week	bathroom	please	go for a picnic
soon	dining room	find	play the violin
look forward to	study	information center	go skating
January	kitchen	excuse me	go camping
February	for rent	phone	do the housework
March	sofa	dad	free
April		hamburger	never
May		Climb on the window ledge	once a week
June		dangerous	twice a week
July		play with fire	three times a week
August		be careful	Canada
September		run down the stairs	Australia
October		sidewalk	the UK
November		wait for	the USA
December		safe	China
birthday		stop	koala
first		street	maple leaves
party		safety rule	Big Ben
delicious		nurse	Disneyland
		cook	campfire
		doctor	cute
		bus driver	country
		police officer	
		taxi driver	
		farmer	

worker
in the future
great
job
sick
people
teach
just
myself
sound